

ロックダウンと博物館—新型コロナウイルス感染症流行下の リトアニア共和国国立博物館の Facebook 利用動向の変遷

Lockdown and Museum Communication - Changes of Facebook Usage in
Lithuanian National Museums at the COVID-19 Crisis

木村 文
Aya KIMURA

【論文】

ロックダウンと博物館—新型コロナウイルス感染症流行下の リトアニア共和国国立博物館の Facebook 利用動向の変遷

Lockdown and Museum Communication - Changes of Facebook Usage in Lithuanian National Museums at the COVID-19 Crisis

木村 文^{*}

Aya KIMURA

Abstract:

In 2020, globally, museums were forced to shut their door to visitors due to preventing the novel virus COVID-19. On the other hand, recently, museums open to society not only on-site but also online. Thus, the virus's spread would be an occasion to shift museum communications and widen virtual access to the museum. This paper aims to examine whether social media usage changed by long-term closure for nationwide quarantine in 2020. The Republic of Lithuania is the case to examine this research question; 18 national museums that use social media for their public relations are the target of this research. The author recorded 5,586 Facebook posts by Lithuanian national museums from January 1st to December 31st, 2020. The number of posts (before, during, and after the first and second quarantine) is statistically analyzed by the Wilcoxon signed-rank test. Through the year 2020, the weekly average number of the posts repeatedly increased and decreased. The Wilcoxon signed-rank test proved that the weekly average number of the posts increased during the first closure for quarantine than the pre-COVID 19 period ($\alpha = 0.05$). The weekly amount of social media posts dropped after the first quarantine, and it did not recover by the second quarantine. The usage of social media remarkably increased by the first long-term closure as a reaction to the crisis; but its prominent increase in quantity was not recognized after the first quarantine.

キーワード : COVID-19、ソーシャルメディア、SNS、ロックダウン、リトアニア

1. はじめに

1.1 本稿の趣旨

2020年、博物館は新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の流行による多大な影響を受けた。特に、COVID-19の流行拡大が加速する時期には、世界各地でその予防のために人と人の接触を制限する措置であるロックダウンが実施され、多くの博物館が閉館を余儀なくされた(図1)。また、COVID-19の流行拡大が収まった時期においても、来館者を受け入れるためには、感染予防対策を十分に行う必要が生じた。そのため、ICOM(国際博物館会議)をはじめ、各関係

機関は感染予防対策のガイドラインを作成し、博物館におけるマスクの着用やソーシャルディスタンスの徹底を図った。また、ロックダウンにより来館者を受け入れられなくなると、多くの博物館がその活動をオンラインによる情報発信に切り替えた。

本研究は、リトアニア共和国国立博物館のFacebook利用動向の変遷を調査分析することにより、COVID-19の流行拡大が博物館にもたらした影響を、博物館によるソーシャルメディアの利用活発化の側面から検証するものである。2020年3月以降に発表された各種研究報告や各機関がまとめたレポートでは、

※お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

原稿受理日：令和3年3月28日
採用決定日：令和3年9月5日



図1 リトアニア航空博物館の長期閉館のお知らせ
(2020年11月18日スクリーンショット)⁽¹⁾

博物館がインターネットを利用したオンラインの活動が増加したことを、COVID-19 流行期における比較的明るい側面として扱うものが顕著にみられるようになった。しかしこの言説は、活動の主体である博物館内部の視点によるものや、博物館関係者を対象としたアンケート結果から導き出されたものであり、あくまでも主観的なものである。したがって、博物館によるソーシャルメディアの利用状況を計量的に調査し、その増減の傾向を分析することによって、COVID-19 の流行拡大による博物館のオンラインの活動の活発化について検証することを本稿の目的とする。

1.2 COVID-19 と博物館

COVID-19 の流行により、世界各国の博物館が多大な影響を受けた。その影響については、既に博物館に関連する各機関がレポートを公開している。

ICOM (国際博物館会議) は、レポート「博物館、博物館専門員と COVID-19 (Museums, museum professionals and COVID-19)」において、第1回調査 (調査期間は2020年4月7日から同5月7日) によって得た約1,600人からのアンケートへの回答をまとめた (ICOM - International Council of Museums. 「Museums, museum professionals and COVID-19: ICOM and UNESCO release their full reports」)。このレポートでは、博物館とその職員の状況、見通される経済的な影響、デジタルの活動とコミュニケーション、セキュリティと保護、再開館、フリーラン

スの専門家とコンサルタントについての情報を整理した (ICOM - International Council of Museums 2020a)。まず、多くの博物館がデジタルの活動を増やし、その過半数がソーシャルメディアの利用を増加させた。ほとんどの博物館が閉館を余儀なくされ、約3割の博物館は活動を縮小することとなり、約1割は二度と開館しないと推計された。8割以上の職員はロックダウン中に在宅勤務をし、その一方でフリーランスの専門家の雇用状況が悪化した。

また、同機関はレポート「博物館、博物館専門員と COVID-19: 追跡調査 (Museums, museum professionals and COVID-19: follow-up survey)」において、第2回調査 (調査期間は2020年9月7日から10月18日) によって得た約900人からのアンケートへの回答をまとめた (ICOM - International Council of Museums. 「ICOM Follow-up report: Museums, Museum professionals and COVID-19」)。このレポートでは、第1回の調査と同様の項目を扱ったものである (ICOM - International Council of Museums 2020b)。2020年9月から10月の状況は、2020年4月に比べて、地域ごとのばらつきがみられるようになったことが冒頭で述べられており、特にアジア、アラブ諸国、ラテンアメリカ、カリブ海の国々は大きな打撃を受けた様子が示された。

一方、UNESCO はレポート「COVID-19 に直面している世界中の博物館 (Museums around the world in the face of COVID-19)」において、51の UNESCO フィールド・オフィスと協働して調査した結果をまとめている (UNESCO 2020)。このレポートでは、世界中の博物館、パンデミック中の博物館の閉館、危機における博物館のレジリエンスについての記述がある。まず、最新の調査の結果明らかになったこととして、全世界の博物館の推定総数は約95,000館であり、そのほとんどが感染予防対策のため閉館せざるを得なくなったことを述べていた。一方、博物館は素早く COVID-19 の危機に対応し、オンラインの情報発信によって社会とのつながりを絶たなかったことが評価された。しかし、デジタル格差がこれまでで

上に顕著になり、発展途上国等では文化にアクセスできない人が多数いる状況も確認された。

また、NEMO (The Network of European Museum Organisations) はレポート「ヨーロッパの博物館における COVID-19 の影響の状況 (Survey on the impact of the COVID-19 situation on museums in Europe)」において、経済的打撃、デジタルの活動、成功事例をまとめた (NEMO – The Network of European Museum Organisations 2020)。他のレポートと比較すると、経済的・財政的な影響についてより詳しく調査しており、多くの博物館が 75% から 80% の収入の減少を報告していること、多様な収入源を確保している博物館のレジリエンスは高い一方、民間資金に依存している博物館の脆弱さが見られること等をまとめた。

同機関はさらに、レポート「ヨーロッパの博物館における COVID-19 の影響の状況についての追加調査 (Follow-up Survey on the impact of the COVID-19 pandemic on museums in Europe)」において、収入減とその結果、デジタルサービスの展開、適応および危機への備えについてまとめた (NEMO – The Network of European Museum Organisations 2021)。調査期間中 (2020 年 10 月 30 日から同 11 月 29 日) において、回答者の約 70% は再開館の日程が決まらないまま閉館中であり、約 45% の博物館が 2021 年 3 月から 9 月の間には COVID-19 以前の来館者数に戻ると見通しを立てていることを報告した。

以上の各機関のレポートが示した全世界的な博物館への COVID-19 の流行による短期的な影響には一定の傾向として、感染予防対策のための長期閉館とデジタルの活動の増加が見られた。特に、デジタルの活動の増加は COVID-19 の流行拡大期における比較的明るい側面であり、UNESCO のレポートにおいては博物館の「レジリエンス」と捉えられている。一方、長期的な影響として、財政的な打撃と、それに伴う職員の雇用の不安定化や今後の博物館活動の再開や存続の危機が挙げられた。これらの長期的な影響については、今後のさらなる調査や報告が待たれる。

他方、博物館学の分野において COVID-19 に関連した研究は、まだあまり多くなされていない。すでに発表されているものには、現場の視点による論考、現在浮上している懸念点についての論考、ロックダウン中のオンラインの試みについて検証する研究が見られる。

COVID-19 の流行についての博物館の現場の視点からの論考には、その流行拡大初期当時の状況の記録が見られる。Christiansen は長期閉館を決定した 2020 年 3 月 12 日のメトロポリタン美術館 (The Metropolitan Museum) の状況と、その後の数週間のリモートワークの様子について自身の経験を記録している (2020)。Potts はGetty 美術館 (Getty Museum) における COVID-19 流行による出張の中止から閉館とリモートワークへの移行までの経緯を描写しており、ソーシャルメディアでのオーディエンスとの対話の試みにより新しいことを始めた一方で、今後数年間予定されている特別展に対する懸念があることを述べている (2020)。Blühm は、オランダのフローニンゲン美術館 (Groninger Museum) での閉館中の状況とソーシャルメディアでの活動について説明しつつ、特別展ができなくても収蔵コレクションに着目すればいい等、これから起こりうる変化の明るい側面に希望を見出している (2020)。これらは、当時の様子を当事者の視線で理解することに寄与するものである。

また一部の論考では、既に片鱗を見せている COVID-19 の流行拡大の負の影響に言及している。Zugazagoitia は、ウェブサイトやソーシャルメディアによるコミュニティと繋がる様々な方法が模索されるものの、博物館の収入源が絶たれていることを懸念している (2020)。一方、Biraglia and Gerrath は、既往研究では企業の寄付による展覧会は来館の意欲を減退させると示されていたものの、COVID-19 の流行が収入減の原因であれば、比較的好意的な印象を与えることを示した (2020)。これらは COVID-19 の流行拡大によって浮上する最初の課題の 1 つとして、博物館の財政悪化を指摘するものである。しかし、まだ

具体的な影響が見られない段階であるため、これらの論考は将来的な研究の着眼点を示唆するにとどまる。

他方、短期的な影響としての感染予防対策のためのロックダウンの間にオンラインで博物館を「開く」試みに関連した研究もいくつか発表されている。Agostino et al. はイタリアの博物館の事例として、ロックダウンに伴い博物館の長期閉館した 2020 年 3 月 8 日から同 4 月 30 日までのソーシャルメディアの利用動向について分析した (2020)。この調査によって、対象の博物館では対象の期間中にソーシャルメディアの利用が倍増し、様々な種類のコンテンツが提供されたものの、オンラインのイベントは比較的短時間であり、提供されたコンテンツは双方向性に欠いていたことを明らかにした (ibid.)。また、異なる地域間の比較研究として、Samaroudi et al. はロックダウン中の博物館閉館期間のアメリカとイギリスの博物館の比較を行った (2020)。調査によって、対象期間中に公開されたデジタルコンテンツの種類、オーディエンス、オーディエンスごとのデジタルコンテンツの種類、財政状況の各項目を分析することにより、各博物館が COVID-19 の危機に対してどのような対応を行ったのかを明らかにした (ibid.)。これらの研究は、いずれもデジタルのコンテンツの提供によって長期閉館を余儀なくされた博物館の活動が継続した様子を示している。

COVID-19 流行以後の博物館についての文献において、これまでに既に包括的なレポートや事例報告、研究論文が多数発表された。これらには、大きく分けて 2 つの方向性があり、その両方を含むものもある。ひとつは、短期的な視点における希望を見出すものである。すなわち、COVID-19 の流行拡大等によって物理的な空間で活動できない分を、オンラインでのコミュニケーションなど、ヴァーチャル空間の活動により補うことへの着眼である。もうひとつは、長期的な視点による悲観的なものである。すなわち、収入の減少といった財政的な課題や今後二度と開館できない博物館についてのものである。

この論文を執筆している時点では、COVID-19 の

世界的な感染拡大開始から 1 年程しか経過しておらず、まだ長期的視点に立つには時期尚早である。よって、本研究ではまず短期的な視点から現状を見通すこととする。そこで、COVID-19 の流行拡大に伴ってオンラインによる博物館のコミュニケーションが活発化したという見解について、事例を基に検証する。そのために、本研究ではソーシャルメディアによる博物館活動について調査を行う。ソーシャルメディアでは、同じプラットフォームであれば、時期や発信主体にかかわらず、同様の書式による情報発信がなされる。この特性により、ソーシャルメディアの投稿は、調査の便宜上、定量的な検証に適しているといえる。

1.3 研究対象：リトアニアの博物館

COVID-19 の流行拡大防止のための長期閉館による、博物館のコミュニケーションの変化をソーシャルメディアの活用によって検証するためには、次の 2 つの条件を満たす事例が適していると考えられる。

- ・条件 1：COVID-19 の流行拡大防止を目的として長期閉館したことが明らかであること。
- ・条件 2：長期閉館以前の段階ですでにソーシャルメディアの利用やそのための ICT 活用が行われていたこと。これは、COVID-19 の流行拡大とは関係なく博物館内での ICT 活用が活発化したという要因を除外するためである。

これらの条件を満たす事例の 1 つとして、本研究ではリトアニア共和国の博物館を対象とする。リトアニアの博物館には、いわゆるロックダウンにより 1 か月を超えて開館できない期間が 2 度あった。その一方で、リトアニアでは政策によって以前から博物館の収蔵資料のデジタル化を進めており、特に国立博物館では ICT 活用を行うための地盤がすでに長期閉館の以前の時点でできていたといえる (木村 2018)。

リトアニアでは、1990 年代半ばから主要な博物館でウェブサイトが公開されるようになった (Mukienė 2011)。また、2000 年代初頭からリトアニア国立美術館によって運営されているウェブサイト「muziejai.lt」は、自館のウェブサイトの無い博物館が開館情報やイベント情報を公開するポータルサイトとして機能

し、多くの博物館がインターネット上に情報を公開できるようになった (ibid.)。2009年の文化省令による予算措置によって開発された「LIMIS (リトアニア博物館情報統合システム)」によって、収蔵資料のデジタル化が全国的に加速した (Kimura 2019)。リトアニアの博物館では、COVID-19の流行の以前から、既に情報通信技術の活用が進んでいたということである。

特に国立博物館は、2019年現在リトアニア国内の全博物館の収蔵品のうちの63%を収蔵し、国立博物館の来館者数は国内全博物館の来館者数の60%を占めることから、リトアニアにおける社会的な影響力が大きいといえる⁽²⁾。また、同じく2019年現在の年間ウェブサイトアクセス数や年間デジタル化資料点数はリトアニア国内の平均を大きく上回っており、ソーシャルメディアの運用にあたっての技術的障壁が比較的少ないと考えられる⁽³⁾。

以上のように、リトアニアの博物館での事例を取り扱うことにより、ソーシャルメディアへの投稿数の変化の検証をするにあたり、各館内への急激な情報通信技術の流入を考慮に入れずに分析することができる。また、国立博物館に着目することによって、リトアニアの中でも情報発信の影響のある機関の状況を検証することができる。したがって、リトアニアの国立博物館は、本研究の目的である長期閉館中の博物館によるソーシャルメディアの利用を検証することに適した事例の1つであると言える。

1.4 研究の目的と手法

本研究は、COVID-19拡大防止のための長期閉館によって博物館のソーシャルメディアの利用は活発化したのか、リトアニアの国立博物館を事例に検証することを目的とした。特に、国立博物館の各館が用いるソーシャルメディアの利用動向に着目した。データ収集のために、インターネット上で発信された情報を目視によって計数した。ソーシャルメディアのうち、リトアニアの国立博物館による利用の割合が最も高いFacebookの投稿を対象とし、2020年1月1日から12月31日までの366日間に投稿されたものを計

数することとした。収集したデータを期間ごとに分類したのち、ノンパラメトリック検定であるWilcoxonの符号付き順位検定を用いてその増減の統計的有意差 (有意水準 $\alpha = 0.05$) を検定し、その結果を考察した。この統計的検定の手法を用いた比較により、本研究の目的である長期閉館によって博物館のソーシャルメディア利用の活発化について検証をする。これにより、一時的な増減のみではなく、博物館のソーシャルメディアの利用の変化の傾向を把握できることが見込まれる。

1.5 本稿の構成

本稿第2節ではまず、研究の背景となるリトアニアにおけるCOVID-19によるロックダウンの状況と国内の博物館が受けた影響について述べる。第3節では、本研究に用いる分析の手法 (統計的仮説検定) とそのためのデータ収集方法を示す。第4節では、調査で得られたデータの概要を示すとともに、得られた統計分析の結果を示す。第5節では、第4節に示した統計分析の結果を元に、長期閉館による博物館のソーシャルメディア利用の活発化について考察をする。第6節では、全体を総括する。

2. リトアニアのロックダウンと博物館

リトアニア共和国では、2020年2月26日にCOVID-19の流行拡大防止のため、「国家非常事態宣言」(Valstybės lygio ekstremaliosios situacijos paskelbimas) が発令された (Lietuvos Respublikos Vyriausybė 2020d)。その後、同3月16日0時から同30日24時 (リトアニア時間) の間、感染拡大予防のためのロックダウン (Karantinas) がリトアニア全土に発令され、様々な行動が制限された (Lietuvos Respublikos Vyriausybės kanceliarija. 「Visoje Lietuvos Respublikos teritorijoje skelbiamas karantinas (pridedamas nutarimas)」)。「リトアニア共和国領内における検疫の通知」(Dėl karantino Lietuvos Respublikos teritorijoje paskelbimo、以降「検疫の通知」) を根拠としたリトアニア全土のロックダウンは、複数回延期され、完全に解除されたのは6

月 17 日であった。3 月の発令から 6 月の解除まで、「検疫の通知」は 21 回にわたる改正がなされた (Lietuvos Respublikos Vyriausybė 2020a)。

文化省は、COVID-19 の流行拡大防止のために、2020 年 3 月 13 日から同 27 日までの間、文化省の管轄する文化施設による来訪者向けのサービスとイベントの開催を取りやめるように通告した。この文化施設には博物館も含まれており、全ての博物館は同 3 月 13 日以降の閉館を余儀なくされた。閉館を続ける期間の期限は、市中の感染状況を見て、延期が繰り返された。長期閉館が始まった直後の 3 月中旬から 3 月下旬にかけて、リトアニアの国立博物館は、感染予防対策の啓発、収蔵品の紹介、来館者（閲覧者）参加型コンテンツといった内容を、ソーシャルメディアへの投稿およびウェブサイトの情報更新において発信していた（木村 2020）。

2020 年 4 月 22 日の「検疫の通知」改正により、4 月 27 日以降の博物館への来館の制限が緩和された (Lietuvos Respublikos Vyriausybė 2020c)。これにより、10 平方メートル以上の広さかつ来館者同士の間隔が 2 メートル以上であれば、博物館に来館できるようになった。制限の解除後は、感染予防のガイドラインの元で来館者を受け入れた。該当するガイドラインとしては、2020 年 5 月 1 日に「ロックダウン緩和によるリトアニアの博物館活動についての [感染防止] 方法勧告の承認令」(Dėl karantino draudimų švelninimo Lietuvos muziejų veiklai metodinių rekomendacijų patvirtinimo) が施行された (Lietuvos Respublikos kultūros ministerija 2020a)。この内容は、博物館への来館制限が緩和されたロックダウン中において、博物館の職員・来館者・収蔵する文化財を守ることを目的としたガイドラインである。このガイドラインは、同 8 月 4 日に廃止された。代わりに、同 7 月 31 日に「COVID-19 流行期における文化施設の運用と文化サービス提供のガイドラインの承認令」(Dėl kultūros įstaigų veiklos ir kultūros paslaugų teikimo rekomendacijų ekstremaliosios situacijos dėl COVID-19 ligos protrūkio laikotarpiu

patvirtinimo) が制定され、同 8 月 4 日から施行された (Lietuvos Respublikos kultūros ministerija 2020b)。この政令は、図書館、博物館、文化センター、国立歴史公園および政府による文化保護区について扱っており、ロックダウンの解除後も、ロックダウン中と同様に感染予防対策を行うように定めている。

2020 年 9 月ごろより、リトアニア国内の COVID-19 の新規感染確認件数の増加が見られるようになり、10 月には急増の傾向が見られるようになった。さらなる感染拡大によって、同 11 月 7 日から 29 日までの全国を対象としたロックダウンの実施が発令された。ロックダウンの根拠である「リトアニア共和国領内における検疫の通知」(Dėl karantino Lietuvos Respublikos teritorijoje paskelbimo) の発令を受けて、リトアニアの各博物館は、再び長期の閉館を余儀なくされた (Lietuvos Respublikos Vyriausybė, 2020b)。当初は、ロックダウンの最初の緩和として、12 月 10 日から制限付きで博物館への来館ができるようになる予定であったが、感染者数のさらなる増加によってより厳しいロックダウンが導入されるようになった (Indrė Jurčenkaitė, 「Vyriausybė pratęsė karantiną iki gruodžio vidurio, sugrįš dalis pramogų | Video.」)。感染者数の増加傾向が続いたため、2 度目のロックダウンは、最初の発令通りに終了することはなく、複数回にわたって延長された。

博物館への来館の制限が部分的に解除されたのは、2021 年 3 月に入ってからであった。まず、3 月 3 日にリトアニア国立博物館のミュージアムショップが開店した (Lietuvos nacionalinis muziejus, 「Suvenyrų parduotuvė jau veikia.」)。そして、正式に博物館の再開が認められたのは 3 月 6 日施行の「検疫の通知」の改正であり、5 人以内もしくは 2 家族以内のグループでのみ、博物館等の展示施設を訪れることができると定められた (Respublikos Vyriausybės 2021b)。また、3 月 11 日施行の改正により、屋内の博物館等の展示施設では、1 人当たり 20 平方メートル以上の密度を保った上で来館者を受け入れることが定められた (Respublikos Vyriausybės 2021a)。一方、2021 年

3月20日現在、完全なロックダウンの解除は3月31日とされているものの、具体的な見通しは立っていない。

3. データの収集方法と分析方法

3.1 分析対象

本研究では、リトアニア国内の博物館のうち、国立博物館に着目する。リトアニアの博物館は、リトアニア共和国博物館法 (Lietuvos Respublikos muziejų įstatymas) に基づき、設置主体によって国立総合博物館、国立専門博物館、地方自治体立博物館、附属博物館、その他博物館の5種類の博物館に分類される(木村 2017)。これらのうち、文化省が所掌している国立の博物館は、国立総合博物館と国立専門博物館であり (ibid.)、これら2種類を本研究の対象の国立博物館とする。2020年現在、リトアニア文化省が把握している107館の博物館のうち、19館が国立博物館である (Lietuvos Respublikos kultūros ministerija. 「Muziejai ir galerijos.」)。

本研究では、対象の博物館によるソーシャルメディア利用の活発化を検証するため、各博物館によるソーシャルメディアへの投稿の件数と日数に着目した。今回分析の対象とするリトアニアの国立博物館では、木村 (2020) の指摘するように、Facebook⁽⁴⁾、Twitter、YouTube等、複数のソーシャルメディアを活用しているが、最も多く用いられているのは、

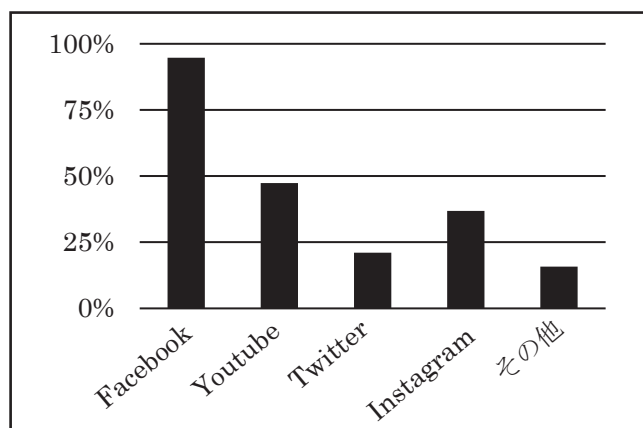


図2 リトアニアの国立博物館における各ソーシャルメディアの利用割合 (%) (木村 (2020) をもとに作成)



図3 Facebookへの投稿例 (リトアニア国立美術館、2021年1月10日スクリーンショット)⁽⁵⁾

Facebookであった (図2)。したがって、Facebookへの投稿を本研究の分析対象とした。

博物館によっては、1館で複数のFacebookページを運営していることがある。これは、対象とする国立博物館の中には、複数の分館がある例があり、それぞれの分館が独立して情報の発信を行っているためである。しかし本研究では便宜上、博物館の名称と同じ名称のFacebookページのみを対象とした。付録1に各博物館のFacebookページの名称およびそのURLを示す。

本研究では、長期閉館中とその前後を比較してソーシャルメディア利用の活発化を検証する。前節に述べた通り、対象の地域であるリトアニアでは2020年中に長期閉館の根拠となるKarantinas (ロックダウン) が3月から6月と11月以降の2度発令された。2回の長期閉館の比較をすることも踏まえて、検証する投

稿の期間は、2020年1月1日から同年12月31日までの366日間とした。投稿の時間は、Facebookの各投稿に表記された年月日を根拠とした。

3.2 データ収集方法

データ収集にあたっては、各博物館のFacebookページの投稿を目視によって集計することとした。集計にあたっては、投稿した博物館の名称と投稿の時刻(年月日時分)を記録した。また、記録と同時にスクリーンショット画像により投稿を記録した。図3にスクリーンショットを行った例を示す。以上の方法によるデータ収集は2020年3月から2020年12月の間に随時行った。

3.3 分析方法: Wilcoxon の符号付き順位検定

本研究では、各博物館の対象期間中のFacebookへの投稿件数および投稿日数の変化を比較し検証した。投稿件数および投稿日数は母集団が正規分布に従うと推定できないため、ノンパラメトリック検定のWilcoxonの符号付き順位検定を用いた。分析にはIBM社のSPSSを用いた。

分析にあたり、比較のために計数した投稿の期間を区切ることとした。ロックダウン期間および博物館の長期閉館期間は、日単位ではなく週単位で計数することとした。これは、木村(2020:75)により曜日(特に平日と週末)によって投稿数の変動があることが確認されることから、週単位で集計することによって曜日によって生じる誤差をなくすためである。この際、来館者による来館の制限もしくは制限の緩和について発表された週の次の週から、該当する期間が始まるとした。これに従い、調査期間を次の期間Ⅰから期間Ⅴの5つの期間に区切ることとした。

- 期間Ⅰ 週番号01から週番号11
最初のロックダウン以前の期間
- 期間Ⅱ 週番号12から週番号17
最初のロックダウン中のうち博物館の閉館中
- 期間Ⅲ 週番号18から週番号25
最初のロックダウン中のうち博物館の開館中

- 期間Ⅳ 週番号26から週番号45
最初と2度目のロックダウンの間の期間
- 期間Ⅴ 週番号46から週番号53
2度目のロックダウン中
週番号はISO 8601に準拠する。⁽⁶⁾

収集したデータを元に、これらの各期間における各博物館の投稿件数および投稿日数を集計した。期間Ⅰから期間Ⅴはそれぞれ週数が異なるため、集計後にそれぞれの加重平均を用いて週ごとの投稿件数および投稿日数を算出した。集計したデータを元に以下の5つの比較を行い、Wilcoxonの符号付き順位検定によって有意水準5%($\alpha = 0.05$)での有意差の検定を行った。

- 比較1 期間Ⅰと期間Ⅱ
- 比較2 期間Ⅱと期間Ⅲ
- 比較3 期間Ⅲと期間Ⅳ
- 比較4 期間Ⅳと期間Ⅴ
- 比較5 期間Ⅰと期間Ⅳ

4. 結果と分析

4.1 調査結果概要

調査を行った結果、2020年1月1日から同12月31日までの間、リトアニアの国立博物館18館はFacebookページに5,586件の投稿をしたことが確認された。1館(ヴァクロヴァス・インタス国立岩石博物館)はFacebookを利用していなかった。確認された投稿を、各博物館の投稿件数と投稿日数に整理したものを表1に示した。

18館のうち最も投稿件数が多かったのはリトアニア海洋博物館(526件)であり、最も投稿件数が少なかったのはカウナス・タダス・イヴァナウスカス動物学博物館(57件)であった。一方、18館のうち最も投稿日数が多かったのはリトアニア野外博物館(262日)であり、最も投稿日数が少なかったのはカウナス・タダス・イヴァナウスカス動物学博物館(49日)であった。

それぞれの博物館の週ごとの投稿件数および投稿日数を表したグラフを図4に示した。また、各博物館の週ごとの投稿件数および投稿日数を表したグラフを付

表1 リトアニアの国立博物館各館の Facebook への合計投稿件数および合計投稿日数 (2020 年)

博物館名	投稿件数	投稿日数
M.K. チュルリョーニス国立美術館	423	253
リトアニア国立博物館	466	280
リトアニア大公宮殿博物館	374	226
リトアニア国立美術館	235	183
カウナス・タダス・イヴァナウスカス動物学博物館	57	49
カウナス第九要塞博物館	236	141
ヴィタウタス大公戦争博物館	293	195
リトアニア教育歴史博物館	243	207
「アルカ」ジェマイティア博物館	268	204
ユダヤ博物館	377	251
リトアニア航空博物館	304	216
リトアニア民族・宇宙博物館	150	101
リトアニア野外博物館	419	262
シャウレイ「アウシュロス」博物館	261	184
トラカイ歴史博物館	213	177
マイローニス・リトアニア文学博物館	525	239
リトアニア海洋博物館	526	250
リトアニア演劇・音楽・映画博物館	216	171
ヴァクロヴァス・インタス国立岩石博物館	0	0
合計	5586	-

録2の図2-1から図2-18に示した。

図4のグラフにおいて投稿件数および投稿日数はいずれも、一定の増加傾向もしくは減少傾向を示していない。投稿件数と投稿日数のどちらも、1年間を通じて小刻みに増減を繰り返している様子が見られる。平均投稿件数が最も多かったのは週数22(5月25日から31日)の8.2件であり、最も少なかったのは週数01(1月1日から1月5日)の1.5件であった。一方、平均投稿日数が最も多かったのは週数17(4月20日から26日)の5.0日であり、最も少なかったのは、週数01の1.2日であった。

4.2 分析結果

4.2.1 比較1 期間Iと期間II

比較1では、最初のロックダウン以前の期間(期間I)と最初のロックダウン中のうち博物館の閉館中の期間(期間II)の投稿件数と投稿日数を比較した。これは、COVID-19の流行拡大の最初期の博物館による対応の前後について検証するものである。Wilcoxonの符号付き順位検定の要約の結果を表2および表3に示した。また、期間Iと期間IIの投稿件数の比較と投稿日数の比較を図5および図6に箱ひげ図で表した。

期間Iと比べて期間IIの各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数の中央値はいずれも増加しており、また、期間Iと期間IIの間に統計的に有意な差が認められた($\alpha=0.05$)。これは、最初のロックダウンによる博物館の長期閉館によって、対象の各博物館がソーシャルメディアを利用する頻度が増加したことを示している。

4.2.2 比較2 期間IIと期間III

比較2では、最初のロックダウン中のうち博物館の閉館中の期間(期間II)と最初のロックダウン中のうち博物館の来館制限の緩和以降の期間(期間III)の投稿件数と投稿日数を比較した。これは、同じロックダウンの期間中において再び開館することにより、ソーシャルメディアの利用が変化したのか、について検証するものである。Wilcoxonの符号付き順位検定の要約の結果を表4および表5に示した。また、期間IIと期間IIIの投稿件数の比較と投稿日数の比較を図7および図8に箱ひげ図で表した。

各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数の中央値と平均値は、期間IIと期間IIIの間で顕著な増減は見られなかった。また、いずれの指標についても、期間IIと期間IIIの間に統計的に有意な差は見られなかった($\alpha=0.05$)。中央値と平均値以外の指標に見られる増減の傾向については、次節の考察で述べることとする。

4.2.3 比較3 期間IIIと期間IV

比較3では、最初のロックダウン中のうち博物館の来館制限が緩和された時期(期間III)と最初のロッ

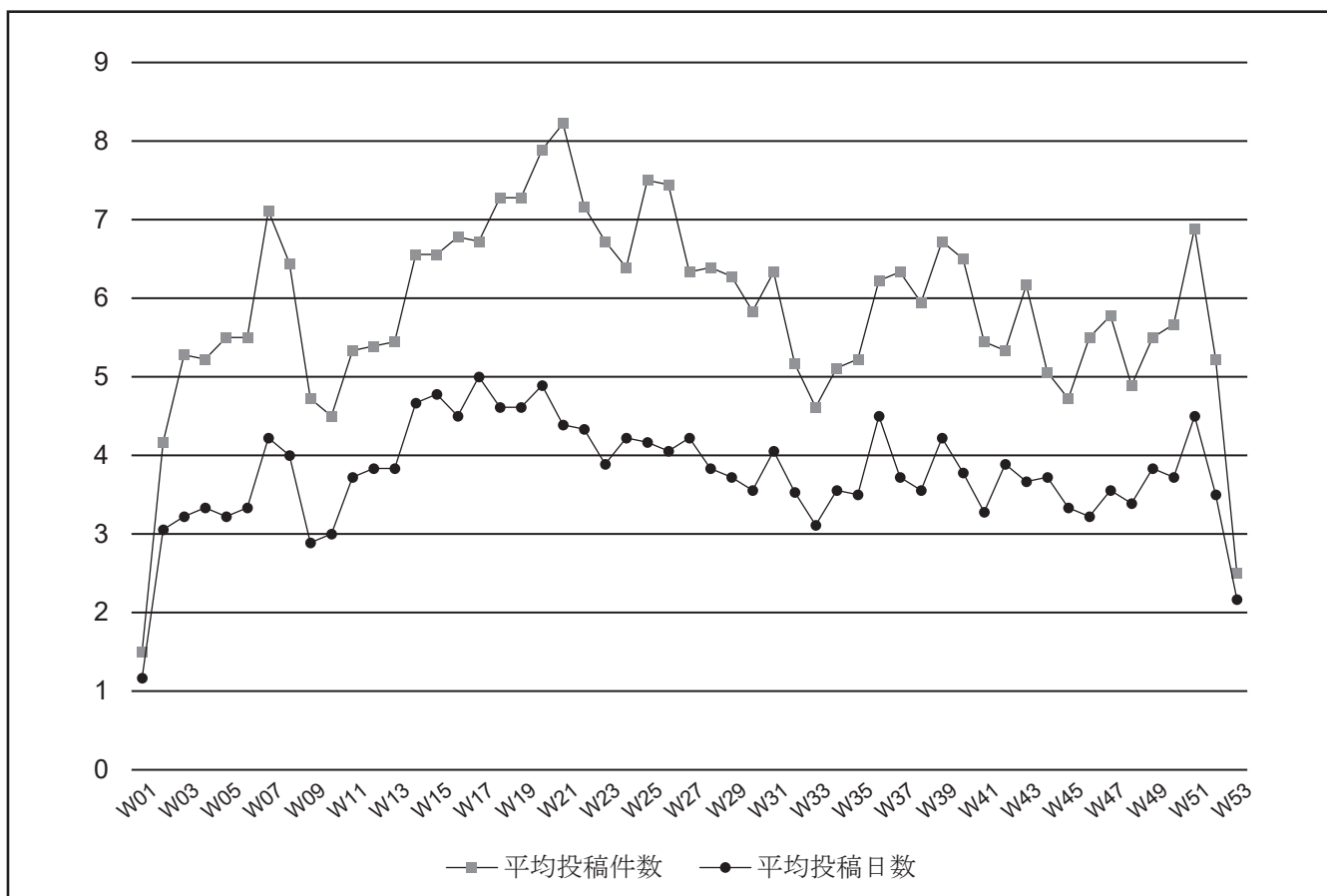


図4 週ごとのリトアニアの国立博物館 18 館の Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移 (2020 年)

クダウンと 2 度目のロックダウンの間の時期(期間Ⅳ)の投稿件数と投稿日数を比較した。これは、リトアニアにとって初めての COVID-19 の流行によるロックダウンの最中とその解除後の変化について検証するものである。Wilcoxon の符号付き順位検定の要約の結果を表 6 および表 7 に示した。また、期間Ⅲと期間Ⅳの投稿件数の比較と投稿日数の比較を図 9 および図 10 に箱ひげ図で表した。

各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数は、期間Ⅲと期間Ⅳの間にかけて全体的な減少の傾向が見られた。また、期間Ⅲと期間Ⅳの間に統計的に有意な差が認められた ($\alpha = 0.05$)。これは、ロックダウンの解除によって博物館の開館状況に変化はなかったものの、そのソーシャルメディアの利用頻度は鈍化したことを示している。

4.2.4. 比較 4 期間Ⅳと期間Ⅴ

比較 4 では、最初のロックダウンと 2 度目のロックダウンの間の時期 (期間Ⅳ) と 2 度目のロックダウンの時期 (期間Ⅴ) の間の投稿件数と投稿日数を比較した。これは、2 度目のロックダウンによる博物館のソーシャルメディアの利用の変化を検証するものである。Wilcoxon の符号付き順位検定の要約の結果を表 8 および表 9 に示した。また、期間Ⅳと期間Ⅴの投稿件数の比較と投稿日数の比較を図 11 および図 12 に箱ひげ図で表した。

各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数は、期間Ⅳと期間Ⅴの間に統計的に有意な差は見られなかった ($\alpha = 0.05$)。統計的に有意な差はないものの、図 11 と図 12 に見られるように、平均値と中央値を比較すると期間Ⅳに比べて期間Ⅴの投稿件数と投稿日数は減少の傾向が見られる。

表2 比較1の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿件数)

合計数	18
検定統計量	132.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	2.025
漸近有意確率 (両側検定)	.043

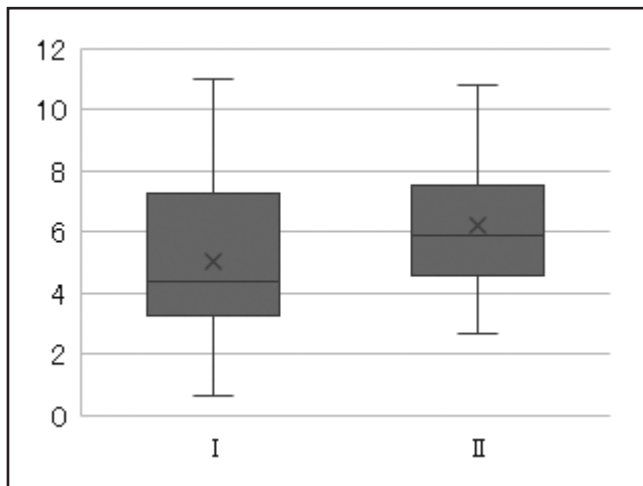


図5 期間Iと期間IIの投稿件数の箱ひげ図 (件)

表4 比較2の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿件数)

合計数	18
検定統計量	98.000
標準誤差	21.113
標準化された検定統計量	1.018
漸近有意確率 (両側検定)	.309

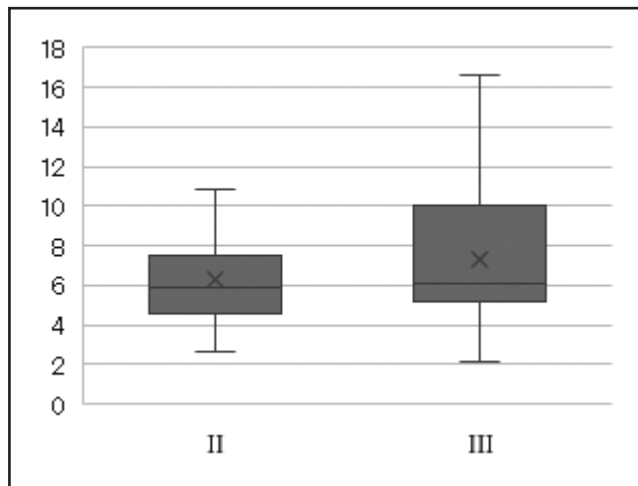


図7 期間IIと期間IIIの投稿件数の箱ひげ図 (件)

表3 比較1の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿日数)

合計数	18
検定統計量	156.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	3.070
漸近有意確率 (両側検定)	.002

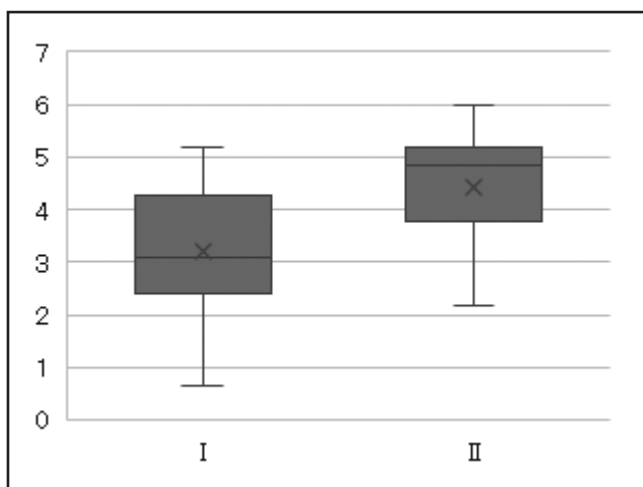


図6 期間Iと期間IIの投稿日数の箱ひげ図 (日)

表5 比較2の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿日数)

合計数	18
検定統計量	80.000
標準誤差	22.951
標準化された検定統計量	-.240
漸近有意確率 (両側検定)	.811

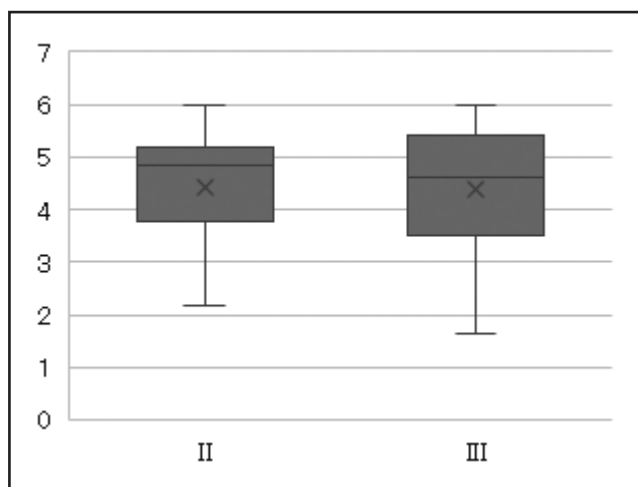


図8 期間IIと期間IIIの投稿日数の箱ひげ図 (日)

表6 比較3の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿件数)

合計数	18
検定統計量	21.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	-2.809
漸近有意確率 (両側検定)	.005

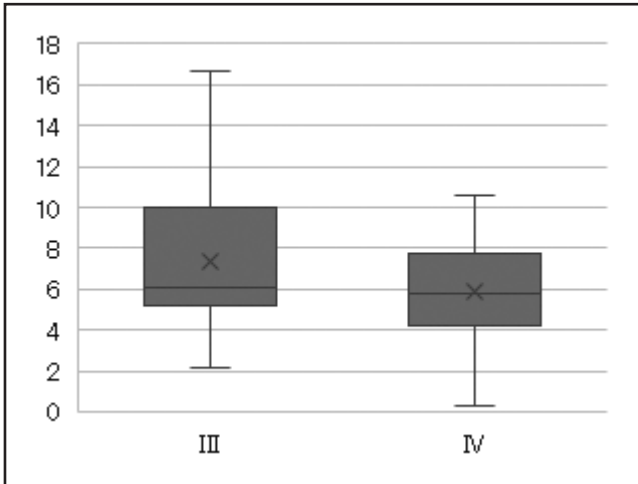


図9 期間Ⅲと期間Ⅳの投稿件数の箱ひげ図 (件)

表8 比較4の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿件数)

合計数	18
検定統計量	67.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	-.806
漸近有意確率 (両側検定)	.420

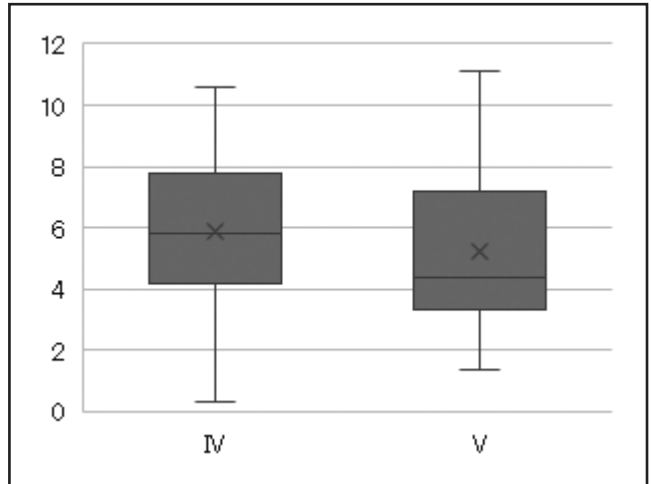


図11 期間Ⅳと期間Ⅴの投稿件数の箱ひげ図 (件)

表7 比較3の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿日数)

合計数	18
検定統計量	8.000
標準誤差	21.119
標準化された検定統計量	-3.244
漸近有意確率 (両側検定)	.001

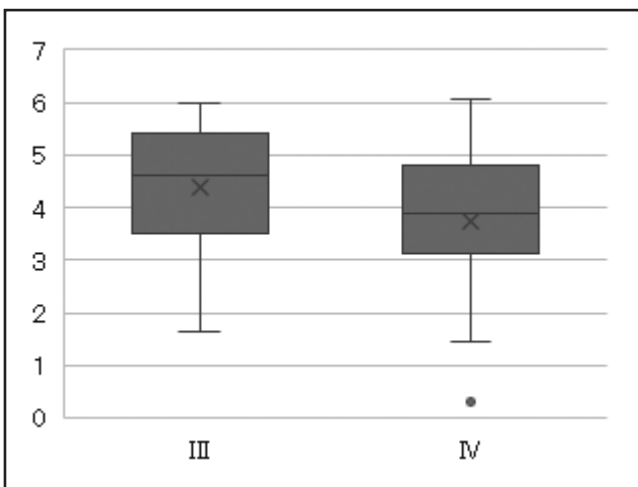


図10 期間Ⅲと期間Ⅳの投稿日数の箱ひげ図 (日)

表9 比較4の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿日数)

合計数	18
検定統計量	62.000
標準誤差	21.125
標準化された検定統計量	-.686
漸近有意確率 (両側検定)	.492

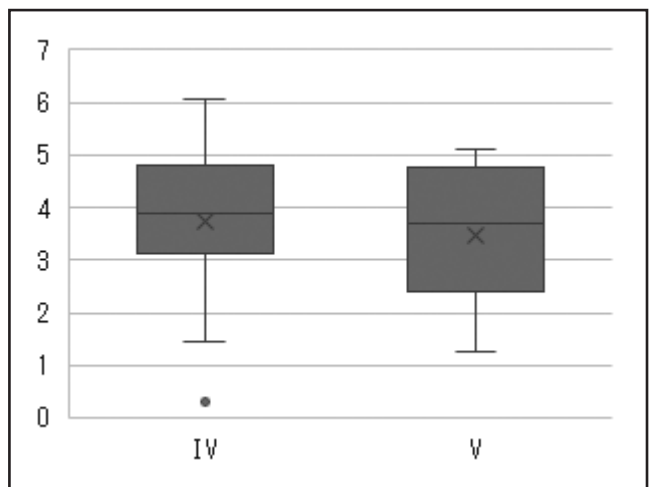


図12 期間Ⅳと期間Ⅴの投稿日数の箱ひげ図 (日)

表 10 比較 5 の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿件数)

合計数	18
検定統計量	116.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	1.328
漸近有意確率 (両側検定)	.184

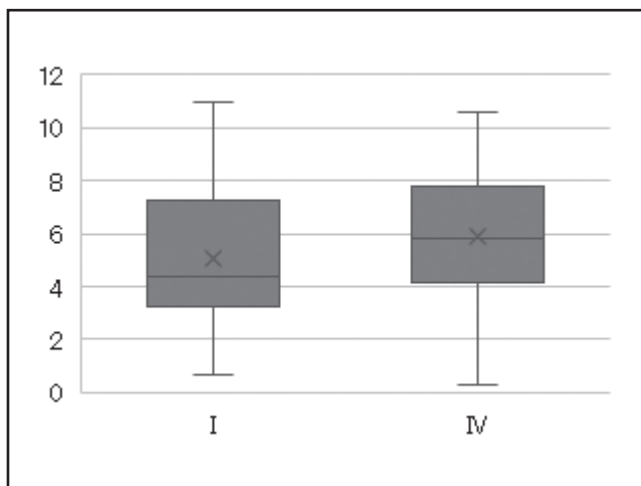


図 13 期間 I と期間IVの投稿件数の箱ひげ図 (件)

表 11 比較 5 の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定の要約 (投稿日数)

合計数	18
検定統計量	138.000
標準誤差	22.962
標準化された検定統計量	2.286
漸近有意確率 (両側検定)	.022

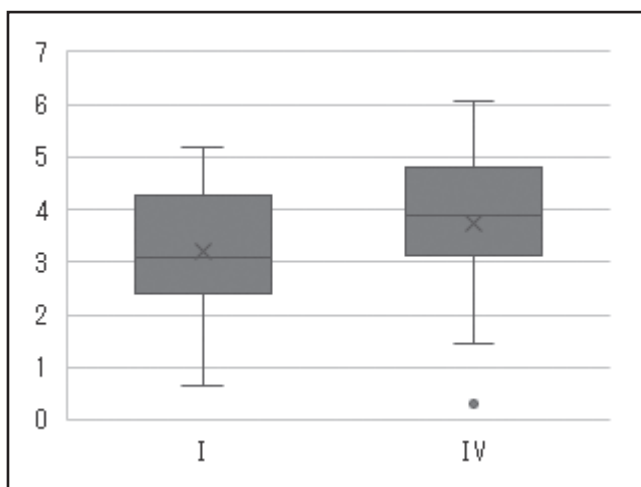


図 14 期間 I と期間IVの投稿日数の箱ひげ図 (日)

4.2.5 比較 5 期間 I と期間IV

比較 5 では、最初のロックダウン以前の時期(期間 I)と最初のロックダウンと 2 度目のロックダウンの間の時期(期間 IV)の間の投稿件数と投稿日数を比較した。これは、ロックダウン実施を通して、ロックダウンしていない時期のソーシャルメディアの利用が変化について検証するものである。Wilcoxon の符号付き順位検定の要約の結果を表 10 および表 11 に示した。また、期間 I と期間IVの投稿件数の比較と投稿日数の比較を図 13 および図 14 に箱ひげ図で表した。

各博物館の週ごとの平均投稿件数は期間 I と期間 IV の間に統計的に有意な差はないものの ($\alpha = 0.05$)、中央値の増加が見られた。一方、平均投稿日数は期間 I と期間IVの間に全体的な増加傾向が見られ、また、統計的に有意な差が認められた ($\alpha = 0.05$)。一度のロックダウンを経た博物館は、ロックダウン前と比較して、ソーシャルメディアの発信頻度が上がる傾向が見られた。

5. 考察

5.1 分析結果についての考察

前節では、2020 年 1 年間のリトアニアの国立博物館各館による Facebook への投稿の件数を計数し、週ごとの投稿件数と投稿日数を期間ごとに集計して比較検証を行った。本項では、比較 1 から比較 5 の結果それぞれの考察を行う。

5.1.1 比較 1 期間 I と期間 II

比較 1 では、最初のロックダウンが始まる直前と直後のソーシャルメディアの利用の変化を検証した。各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数は、期間 I と期間 II の間に増加が見られ、統計的に有意な差が認められた ($\alpha = 0.05$)

そして、期間 I と期間 II の間では、投稿件数と投稿日数の最大値と最小値にも変化が見られた。ただし図 6 の箱ひげ図に見るように、投稿件数の最小値は増加しているものの、最大値の増加はほとんど見られなかった。投稿件数の増加は期間 I に投稿が少なかった博物館の底上げによるものと考えられる。

期間Ⅰは2月16日（1918年のリトアニアの国家回復を祝う記念日）と3月11日（1990年のリトアニアの独立回復を祝う記念日）の両方を含んでおり、Facebookでの投稿が大幅に増える可能性が高い時期であると考えられる。一方、博物館の長期閉館を余儀なくされた期間Ⅱは、元々は目立った記念日や催しがない時期である。通常であれば（すなわち長期閉館等がなければ）期間Ⅰから期間Ⅱの間で顕著に投稿数や投稿日数が増えると推測しにくいといえる。すなわち、期間Ⅰから期間Ⅱのあいだに投稿件数および投稿日数が増加したのは、長期閉館に伴うものと考えられる。

比較1は、最初のロックダウンの初期はその直前と比べて、博物館によるソーシャルメディアの利用が活発化したことを示した。また、投稿件数は、それまでにソーシャルメディアの利用が多くなかった博物館による底上げが見られたといえる。

5.1.2 比較2 期間Ⅱと期間Ⅲ

比較2では、最初のロックダウン中の期間のうち、博物館が閉館せざるを得なかった期間と、開館して来館者を受け入れることができるようになった期間中のソーシャルメディアの発信頻度の増減を検証した。各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数は、期間Ⅱと期間Ⅲの間に顕著な増減は見られず、また、統計的に有意な差はなかった（ $\alpha = 0.05$ ）。

統計的な有意差はないものの、図7と図8に見るように、期間Ⅱに比べて期間Ⅲの投稿件数および投稿日数の中央値と最小値は低くなっている。これは、長期閉館を終えて開館したことによってソーシャルメディアの利用が鈍った博物館が多数あったことを示している。一方、最大値に着目すると、投稿件数の最大値は期間Ⅲの方が期間Ⅱよりも大きく、投稿日数については同水準を保っている。投稿日数の最大値は6日であり、1週間が7日であることを考慮すると、この時期に最も活発にソーシャルメディアを活用している博物館は最大の頻度で投稿を行っていたといえる。

比較2は、ロックダウンが実施されている間の、閉館中と開館中の2つの期間の間では、投稿件数と投

稿日数は統計的に有意な差が見られなかったことを示した。しかしこれは、全ての博物館のソーシャルメディアの利用の状況に変動がなかったことを示しているわけではない。ロックダウン中に博物館が再び来館者を受け入れられるようになったことによって、オンラインの発信を増加した館と減少させた館の両方があった、ということである。

5.1.3 比較3 期間Ⅲと期間Ⅳ

比較3では、ロックダウンの解除の前後の期間を比較した。比較した期間はいずれも博物館の開館が可能であった。各博物館の週ごとの平均投稿件数と平均投稿日数は、期間Ⅲと期間Ⅳの間に減少の傾向がみられ、統計的に有意な差が認められた（ $\alpha = 0.05$ ）。

投稿件数と投稿日数で、どちらも期間Ⅲと期間Ⅳの間で統計的に有意な差があるものの、減少の傾向が異なる。図9に見るように、投稿件数は中央値にほとんど差がないものの、最大値が大幅に減少している。比較的投稿件数が多い博物館の方が、ロックダウンの解除の影響を受けたのだと考えられる。

一方、図10に見るように、投稿日数は最大値と最小値（外れ値を除く）にほとんど変動がないものの、中央値に減少がみられる。このことより、1週間のうちFacebookの投稿を行う日を全体的に緩やかに減らしたのだと考えられる。期間Ⅲと期間Ⅳの間で、ソーシャルメディアの利用が鈍った要因としては、博物館が従来通り来館者を受け入れられているようになり、館内での活動が活発になったことが挙げられる。

投稿件数と投稿日数の減少の背景には、博物館を開館できるためにインターネットを介してより多くの情報を発信するモチベーションが下がったことや、運用上、ロックダウン解除後はソーシャルメディアを頻繁に更新する時間が取れなくなった、という可能性が考えられる。これらは推測の域を出ないので、検証するためには別途追加調査が必要である。

ただし、ロックダウン実施期間の活動を通して、ロックダウンをしていない時期を含めたソーシャルメディアの利用方針全般が変化した可能性はある。このことについては、比較5において期間Ⅰと期間Ⅳを比較す

ることによって検証することとする。

5.1.4 比較4 期間IVと期間V

比較4では、ロックダウン解除中と二度目のロックダウンの期間を比較した。前述したように、二度目のロックダウンは再びの長期閉館を伴うものであった。各博物館の週ごとの平均投稿日数は、期間IVと期間Vの間にほとんど変化がなかったものの、平均投稿日数は減少した。しかし、いずれの値も、期間IVと期間Vの間では統計的に有意な差は認められなかった ($\alpha = 0.05$)

投稿件数の最大値と最小値は期間Vの方が大きい値を示している。したがって、投稿件数が増加した博物館と減少した博物館が混在しているといえる。また、期間Vの投稿日数は期間IVに比べて第二四分位数と第三四分位数あいだの幅が大きくなっている。このことは、投稿日数のばらつきが大きくなったことを示している。すなわち、期間IVから期間Vにかけては、対象の博物館は一律の変化の傾向を示さなかったということである。

比較4では、2度目のロックダウンの直前の期間とその最中の期間の比較をすると、投稿件数と投稿日数は2つの期間の間で統計的に有意な差がないことを示した。ただし、統計的な有意差はないものの、2度目のロックダウンによってソーシャルメディアの利用が減少の傾向が見られた。これは、1度目のロックダウンの時に見られたのとは異なる傾向である。COVID-19の流行拡大から一定期間が経過したことにより、博物館ごとに異なる対応をするようになった可能性を示している。

5.1.5 比較5 期間Iと期間IV

比較5では、2020年のうちロックダウンのなかった2つの時期（期間Iと期間IV）を比較するものである。各博物館の週ごとの平均投稿件数は期間Iと期間IVの間に統計的に有意な差はないが、平均投稿日数は期間Iと期間IVの間に統計的に有意な差があった ($\alpha = 0.05$)。

期間Iと期間IVはどちらも博物館が開館し、博物館への来館が制限されていない時期である。ただし、期

間IVの間はCOVID-19の流行が一時的に収まっていただけなので、来館者へのマスク着用の要請などの様々な感染予防対策が行われた。図3に示した投稿のスクリーンショットは、その一例である。この観点から、ロックダウン中でなくとも、一度に多数の来館者が集まる、という状況は感染予防対策上好ましくない。したがって、特定の日の来館を促すのではなく、それぞれの来館が分散するよう誘導する方向にソーシャルメディアの利用が変化した可能性が考えられる。

Facebookに投稿した回数には明確な差は認められないものの、その投稿に取り組んでいる日数の増加は認められた。すなわち、特定の日に多数の投稿が行われるよりも、日を分けて数件ずつ投稿するようになった、という傾向が見て取れる。

統計的に有意な差はなかったものの、図13の箱ひげ図に示されているように、期間Iから期間IVの間には投稿件数の増加の傾向がみられる。最大値と最小値の変化はわずかであるが、平均値と中央値は上昇している。すなわち、投稿件数に代表される活動の状況は、上限と下限は固定したまま、ロックダウンを経て中間層における活発化があったと推測できる。

比較5では、ロックダウンも長期閉館もしていない2つの時期を比べると、投稿件数は明確な差が見られない一方で、投稿日数のみに統計的な有意差が見られた ($\alpha = 0.05$)。この結果は、各博物館がロックダウンの期間を経たことや感染予防対策をしながら活動する中で、ソーシャルメディアの利用の方針を転換したことによると考えられる。ただし、これはあくまでも仮説であるので、今後の具体的な投稿内容の検証や投稿の意図についての調査による実証が期待される。

5.1.6 時系列的な変化の傾向：比較検証のまとめ

ここでは、以上の考察に基づいて2020年を通して各博物館の投稿件数と投稿日数の変化をまとめる。

最初のロックダウンの初期はその直前の時期と比べて博物館によるソーシャルメディアの利用が活発化した（比較1）。ロックダウン中の閉館期間と開館期間の2つの期間の間では、投稿件数と投稿日数は統計的に有意な差が見られなかった（比較2）。ロックダ

ウンの解除によって、投稿件数と投稿日数が統計的に有意な差を以て減少した（比較3）。2度目のロックダウンの直前の期間と最中の期間の間の投稿件数と投稿日数には、統計的に有意な差が見られなかった（比較4）。ロックダウンも長期閉館もしていない2つの時期を比べると、投稿件数は明確な差が見られない一方で、投稿日数のみに統計的な有意差が認められた（比較5）。

この結果は、4.1に示した図4の各博物館の週ごとの投稿件数および投稿日数の平均値の推移のグラフと矛盾するものではない。週単位の値では、より頻繁な増減の変化が見られている。したがって、2020年の1年間を通して、リトアニアの国立博物館は増減を繰り返しながらもソーシャルメディアの利用を続けたことが、単純な集計とWilcoxonの符号付き順位検定の双方から明らかになった。

5.2 2回のロックダウンとソーシャルメディア

ここでは、感染予防対策のロックダウンと博物館によるソーシャルメディアの活用に関連について考察する。リトアニアでは、2020年の間に2回目のロックダウン期間があった。初めのロックダウンの期間は、2020年3月16日から6月17日までの約3か月間であり、世界的なCOVID-19の流行が始まった時期であった。このロックダウンは、リトアニア国内での感染者が増加する前に始まり、感染拡大抑制の役割を果たした⁽⁷⁾。一方、2度目のロックダウンの期間は2020年11月7日に始まり、年をまたいで継続した。このロックダウンは、リトアニアでの新規感染者確認件数が急激に増えたことをきっかけに始まった。また、ロックダウンを開始してから数週間の間は、増加の勢いは収まらなかったものの、2021年1月に入り、一旦は収束の兆しが見え始めた⁽⁸⁾。このように、2回のロックダウンは、その取り巻く状況が大きく異なっている。

このことは、博物館におけるソーシャルメディアの利用状況にも呼応していると考えられる。比較1の検証の通り、1度目のロックダウンの期間の閉館中（期間II）は2020年のそれ以前の期間（期間I）と比べ

て投稿日数および投稿件数が多く、統計的に有意な差も認められた（ $\alpha = 0.05$ ）。また、比較2にみるように、その傾向はロックダウン中の開館が認められた期間（期間III）の間も維持していた。1.2に前述したいくつかの国際的なレポートや事例報告にあるように、投稿の件数や頻度の面において、最初のロックダウン期間中のリトアニアの国立博物館ではオンラインの活動が活発化したといえる。

一方、2度目のロックダウンの期間は別の様相を示している。比較4にあるように、最初のロックダウンのように、その直前の期間と比べてソーシャルメディアへの投稿件数や投稿日数の顕著な増加が見られなかった。但し、統計的な有意差はみられなかったものの、変化がなかったとは言い切れない。また、ソーシャルメディアの件数や頻度の変化が見られなかったものの、ソーシャルメディア以外の方法でオンラインでの情報発信が活発化した可能性は否定できない。しかし、最初のロックダウンと2度目のロックダウンの間では、各博物館のソーシャルメディアの利用方針の変化があったことは明らかである。以上に見られた差異は、本節冒頭に記したような感染状況の違いによって生じたものであるかどうかについては、本研究の範疇では判断できない。また、これまで発表されている包括的なレポートは、2020年冬季のCOVID-19の流行期のことは含んでいないため、この傾向がリトアニアの博物館特有のものであるのか、それとも世界的なものであるのか、検証できる段階にはない。したがって、COVID-19流行拡大防止のための長期閉館が一律に博物館のソーシャルメディアの利用を活発化させたとは判断できない。

この結果は、博物館によるオンラインの情報発信や来館者のコミュニケーションの指標としてソーシャルメディアへの投稿を選択したことによるバイアスによるものである可能性がある。ソーシャルメディアは、現在、基本的に利用に固定費がかからず、投稿を作成する人件費だけで運用できる。この性質は、非常時の最初期にコミュニケーションの代替手段とするには適している。しかし、多くのユーザーが相乗り状態のサー

ビスであるため、自館のウェブページや実際の館内の展示空間に比べて、制約が多いというデメリットがある。このことを考慮すると、期間Ⅱと期間Ⅲにおいて活発にソーシャルメディアを利用した後、別の方法で情報を発信する方向に切り替えたため、期間Ⅴにはソーシャルメディアの利用の上昇が見られなかったという仮説が立てられるものの、その検証をすることはこの調査の限度を超えている。また、一部の博物館において、Facebook以外のソーシャルメディアの利用や自館のウェブサイトの活用に切り替えた可能性も否定できない。この点については、今後、他のソーシャルメディアを含めた調査を行うことにより検証が求められる。

したがって、今後の調査では、本稿のようにソーシャルメディアのうちの一プラットフォームに限らずに、様々な媒体に調査の範囲を広げることによって、現実即した調査が展望される。また、ソーシャルメディアを対象とした調査としては、比較5に前述したように質的な変化に着目することによって、2度のロックダウンが博物館に与えた影響をより詳しく検証することが見通される。

6. 結論

本研究では、COVID-19の流行によって博物館の受けた影響を、オンラインによる情報発信の側面から検証した。2020年3月以降に発表された数多くの関連する文献では、博物館がインターネットを利用したオンラインの活動が活発化したとしているが、それらは博物館の当事者による報告に基づいているものがほとんどであった。博物館の外部の視点からこの点を検証するにあたり、COVID-19の流行拡大によって各博物館のソーシャルメディアの利用動向を調査し、その増減を分析することとした。事例調査の対象としたのは、リトアニア共和国の国立博物館19館のうち、調査時点でソーシャルメディアを利用していた18館である。2020年のリトアニアは、他の多くの国と同じく世界的な感染の渦中にあつた。同年1年間に、COVID-19流行の拡大防止のためのロックダウンを2

回にわたり経験しており、それぞれのロックダウンに伴い博物館の長期閉館を余儀なくされた。

調査の手法は、目視による記録、計数、そして統計的仮説検定による比較検証であった。リトアニアの国立博物館19館のうち18館が利用しているソーシャルメディアであるFacebookへの投稿を記録および計数することによって、その利用状況を検証することとした。調査の対象としたのは、2020年1月1日から12月31日までの366日間に行われた投稿5,586件である。そして、2020年をロックダウンや長期閉館の時期によって5つの期間（期間Ⅰ～期間Ⅴ）に区切り、期間ごとの各館の投稿件数と投稿日数の週ごとの平均値を算出した。そのデータを基に、統計的仮説検定のWilcoxonの順位符号検定を行った。

2020年の1年間、調査対象のリトアニアの国立博物館によるソーシャルメディアへの投稿件数と投稿日数は、増減を繰り返した。調査のために区切った5つの期間（期間Ⅰ～期間Ⅴ）について、前後する期間の投稿件数と投稿日数の差を検証した4つの比較検証（比較1～比較4）では、1度目のロックダウンによってソーシャルメディアの利用が活発化したものの、2度目のロックダウンは同様の変化をもたらさなかったことが、明らかになった。一方、ロックダウンしていない期間について分析した比較5によって、最初のロックダウンを経て、開館期間中のソーシャルメディアの利用の傾向が変化したことがわかった。これにより、ロックダウンによる各館のソーシャルメディアの利用状況への影響は、1度目と2度目で異なることがわかった。

以上の結果は、ロックダウンの直前、最中、直後のソーシャルメディアの利用状況を比較したものであり、ロックダウンと投稿数の因果関係を直接検証するものではない。ただし、既に発表されている論考や論文において半ば前提として扱われている、ロックダウンの時期におけるオンラインの博物館活動の増加について、客観的に示すことによって今後の検証の礎となることを展望する。

本稿では、COVID-19の流行によって博物館の受

けた影響をソーシャルメディアでの発信の件数や頻度を基に明らかにした。ロックダウンや長期閉館によって、展示室に来館者を迎える等の従来の活動を制限された博物館は、オンラインでの活動に切り替えざるを得なかったと一般に言われている。しかし、その影響がリトアニアの国立博物館のソーシャルメディアに反映されたのは、特に最初のロックダウン(3月から6月)の間だけであった。2度目のロックダウンは、1度目に比べて、ソーシャルメディアの利用の増加を誘発しなかった。

ただし、本研究の調査では、各博物館の Facebook ページの投稿数のみに着目するため、その内容や形式について考慮することができなかった。閉館中は、展覧会のお知らせや博物館でのイベントの告知は必要なくなる一方、ヴァーチャル展示のお知らせやオンラインイベントの告知が増加するという仮説は立てられるが、これらは投稿数のみに着目した場合、明らかにしない。今後の研究の中で、本研究で収集する各博物館の投稿のスクリーンショット画像を用いた内容の分類と計数等によりさらに分析を進める必要がある。量的な変化だけではなく、質的な変化(投稿内容の変化、別のソーシャルメディアの利用、ソーシャルメディア以外のオンラインで情報発信をする手段の利用、オンラインへの締め等)の検証については今後の研究の課題となる。

付記

本研究は、令和2年度お茶の水女子大学大学院生研究補助金の助成を受けたものである。

註

- (1) Lietuvos aviacijos muziejus. 「Muziejus lankytojams laikinai uždaromas」
- (2) 博物館関連の統計データはリトアニア共和国文化省がデータを公表しており、2021年2月現在、「文化の統計」と題したウェブページから2008年から2019年の毎年の統計データがMicrosoft Excelのファイルとしてダウンロードすることができる。(Lietuvos Respublikos

kultūros ministerija. 「Kultūros statistika」)

- (3) Ibid.
- (4) Facebook (フェイスブック)とは、米国カリフォルニア州を拠点とするFacebook, Inc. が提供するサービスであり、「発言の場を提供」し、「つながりとコミュニティの構築」し、「すべての人に役立つサービス」として、「利用者の安全とプライバシーの保護」し、「ビジネス機会を促進」することを原則とするものである(FACEBOOK. 「会社情報」)。そのサービスとしては、アカウントの作成、友達の追加、メッセージ、ストーリーズ等の多様なものがある(Facebook. 「Facebookヘルプセンター」)。これらのうち、本研究では各博物館が組織として投稿等を行っている「Facebook ページ」を対象とする。「Facebook ページ」は「企業、ブランド、組織、公人・著名人がFacebook上で情報を発信し、人々をつながるための手段」としてサービスが提供されているものである(Facebook. 「Facebook ページを作成するにはどうすればよいですか。 | Facebook ヘルプセンター」)。
- (5) Lietuvos nacionalinis muziejus. 「Lietuvos nacionalinis muziejus (National Museum of Lithuania) - 投稿 | Facebook」
- (6) 但し、週番号1は、2020年1月1日から同3日までの3日間のみを計数し、週番号53は2020年12月28日から同31日の4日間のみを計数する。
- (7) リトアニア政府がCOVID-19の感染状況のデータやその他情報を公表しているウェブサイト「KORONA STOP」では、新規感染確認人数や死亡者数等の統計を公表している(Lietuvos Respublikos Vyriausybė. 「Statistika Lietuvoje」)。
- (8) 「KORONA STOP」によると、リトアニアの一日あたりの新規感染確認人数は10月下旬から急激に増加し始め、12月18日に3,941人でピークを迎えた。その後、減少の傾向を見せ、1月10日に約2か月ぶりの1,000人を下回った(Lietuvos Respublikos Vyriausybė. 「Statistika Lietuvoje」)。

引用文献

- Agostino, Deborah, Michela Arnaboldi, and Antonio Lampis. 2020. "Italian State Museums during the COVID-19 Crisis: From Onsite Closure to Online Openness." *Museum Management and Curatorship* 35 (4) : 362-72.
- Biraglia, Alessandro, and Maximilian H.E.E. Gerrath. 2020. "Corporate Sponsorship for Museums in Times of Crisis." *Annals of Tourism Research*: 103056.
- Blühm, Andreas. 2020. "The Groninger Museum Experience." *Museum Management and Curatorship* 35 (3) : 225-26.
- Christiansen, Keith. 2020. "The Met and the COVID Crisis." *Museum Management and Curatorship* 35(3) : 221-24.
- ICOM - International Council of Museums. 2020a. *Museums, Museum Professionals and COVID-19*. <https://icom.museum/wp-content/uploads/2020/05/Report-Museums-and-COVID-19.pdf> (2021年2月検索).
- . 2020b. *Museums, Museum Professionals and COVID-19: Follow-up Survey*. <https://icom.museum/wp-content/uploads/2020/11/FINAL-EN-Follow-up-survey.pdf> (2021年2月検索).
- . "ICOM Follow-up Report: Museums, Museum Professionals and COVID-19." ICOM. <https://icom.museum/en/news/follow-up-report-museums-covid-19/> (2021年2月検索).
- . "Museums, Museum Professionals and COVID-19: ICOM and UNESCO Release Their Full Reports." ICOM. <https://icom.museum/en/news/museums-museum-professionals-and-covid-19-survey-results/> (2021年2月検索).
- Indrė Jurčenkaitė. "Vyriausybė Pratęsė Karantiną Iki Gruodžio Vidurio, Sugrįš Dalis Pramogų | Video." 15min.lt. https://www.15min.lt/embed/191418?autoplay=1&teaser=1&mute=1&floating_player=1&start_at=0 (January 30, 2021).
- Kimura, Aya. 2018. "Digitization Practices at Lithuanian Museums after the LIMIS Implementation (2008-2017)." *Museologica Brunensia*. 7 (2) : 19-33.
- Lietuvos aviacijos muziejus. "Muziejus Lanckytojams Laikinai Uždaromas." <https://www.lam.lt/naujiena/muziejus-lankytojams-laikinai-uzdaromas/> (2021年1月検索).
- Lietuvos nacionalinis muziejus. "Lietuvos Nacionalinis Muziejus (National Museum of Lithuania) - 投稿 | Facebook." <https://www.facebook.com/lnmuziejus/posts/3383529581665404> (2021年1月検索).
- . "Suvenyrų parduotuvė jau veikia." <http://www.lnm.lt/suvenyru-parduotuve-jau-veikia/> (2021年3月検索).
- Lietuvos Respublikos kultūros ministerija. 2020a. 2020-09217 ĮV-594 Dėl Karantino Draudimų Švelninimo Lietuvos Muziejų Veiklai Metodinių Rekomendacijų Patvirtinimo. <https://e-seimas.lrs.lt/portal/legalAct/lt/TAD/cc31fca28b1a11eaa51db668f0092944?jfwid=5ob7n1lrj> (2021年1月検索).
- . 2020b. 2020-16854 ĮV-1028 Dėl Kultūros Įstaigų Veiklos Ir Kultūros Paslaugų Teikimo Rekomendacijų Ekstremaliosios Situacijos Dėl COVID-19 Ligos Protrūkio Laikotarpiu Patvirtinimo. <https://e-seimas.lrs.lt/portal/legalAct/lt/TAD/d66b1302d5c011ea8f4ce1816a470b26?jfwid=5ob7n1lrj> (2021年1月検索).
- . "Kultūros statistika." <http://lrkm.lrv.lt/lt/veikla/kulturos-statistika> (2021年2月検索).
- . "Muziejai ir galerijos." <http://lrkm.lrv.lt/lt/veiklos-sritis/muziejai-ir-galerijos> (2021年2月検索).
- Lietuvos Respublikos Vyriausybė. 2020a. 2020-23062 1226 Dėl Karantino Lietuvos Respublikos Teritorijoje Paskelbimo. <https://e-seimas.lrs.lt/portal/legalAct/lt/TAD/a2b5da801f4a11eb9604df942ee8e443> (2021年1月検索).

- . 2020b. 207 Dėl Karantino Lietuvos Respublikos Teritorijoje Paskelbimo.
<https://e-seimas.lrs.lt/portal/legalActEditions/lt/TAD/deaf8694663011eaa02cacf2a861120c> (2021 年 1 月 檢索) .
- . 2020c. 2020-08311 Dėl Lietuvos Respublikos Vyriausybės 2020 m. Kovo 14 d. Nutarimo Nr. 207 „Dėl Karantino Lietuvos Respublikos Teritorijoje Paskelbimo“ Pakeitimo.
<https://www.e-tar.lt/portal/legalAct.html?documentId=f426672084a111eab005936df725feed> (2021 年 1 月 檢索) .
- . 2020d. 2020-04023 152 Dėl Valstybės Lygio Ekstremaliosios Situacijos Paskelbimo.
<https://e-seimas.lrs.lt/portal/legalAct/lt/TAD/8f6b1a7658a111eaaac56f6e40072e018> (2021 年 1 月 檢索) .
- . 2021a. 2021-03-10 Nr. 2021-05005 146 Dėl Lietuvos Respublikos Vyriausybės 2020 m. Lapkričio 4 d. Nutarimo Nr. 1226
<https://www.e-tar.lt/portal/legalAct.html?documentId=40fde80081ce11eb9601893677bfd7d8> (2021 年 3 月 檢索) .
- . 2021b. 2021-03-04 Nr. 2021-04486 128 Dėl Lietuvos Respublikos Vyriausybės 2020 m. Lapkričio 4 d. Nutarimo Nr. 1226
<https://www.e-tar.lt/portal/legalAct.html?documentId=34eaa4d07cc011eb9601893677bfd7d8> (2021 年 3 月 檢索) .
- . “Statistika Lietuvoje.”
<https://koronastop.lrv.lt/lt/statistika-lietuvoje> (2021 年 2 月 檢索) .
- Lietuvos Respublikos Vyriausybės kanceliarija. “Visoje Lietuvos Respublikos teritorijoje skelbiamas karantinas (pridedamas nutarimas).”
<http://lrv.lt/lt/naujienos/visoje-lietuvos-respublikos-teritorijoje-skelbiamas-karantinas-pridedamas-nutarimas-1> (2021 年 1 月 檢索) .
- Mukienė, Danutė. 2011. “Lithuania: The Development of Digital Publications in Lithuanian Museums in 1995 – 2010.” *Uncommon Culture*: 126-31.
- NEMO - The Network of European Museum Organisations. 2020. Survey on the Impact of the COVID-19 Situation on Museums in Europe.
https://www.ne-mo.org/fileadmin/Dateien/public/NEMO_documents/NEMO_COVID19_Report_12.05.2020.pdf (2021 年 1 月 檢索) .
- . 2021. Follow-up Report on the Impact of COVID-19 on Museums in Europe.
https://www.ne-mo.org/fileadmin/Dateien/public/NEMO_documents/NEMO_COVID19_FollowUpReport_11.1.2021.pdf (2021 年 2 月 檢索) .
- Orlandi, Sarah Dominique. 2020. “Museums Web Strategy at the Covid-19 Emergency Times.” *DigitCult - Scientific Journal on Digital Cultures* 5 (1) : 57-66.
- Ou, Jiancheng. 2020. “China Science and Technology Museum Boosting Fight against COVID-19.” *Museum Management and Curatorship* 35 (3) : 227-32.
- PennisiMay. 28, Elizabeth, 2020, and 8:55 Pm. 2020. “Shuttered Natural History Museums Fight for Survival amid COVID-19 ‘Heartbreak.’” *Science | AAAS*. <https://www.sciencemag.org/news/2020/05/shuttered-natural-history-museums-fight-survival-amid-covid-19-heartbreak> (2020 年 11 月 檢索) .
- Potts, Timothy. 2020. “The J. Paul Getty Museum during the Coronavirus Crisis.” *Museum Management and Curatorship* 35 (3) : 217-20.
- Samaroudi, Myrsini, Karina Rodriguez Echavarria, and Lara Perry. 2020. “Heritage in Lockdown: Digital Provision of Memory Institutions in the UK and US of America during the COVID-19 Pandemic.” *Museum Management and Curatorship* 35 (4) : 337-61.
- UNESCO. 2020. Museums around the World in the Face of COVID-19 - UNESCO Digital Library.
<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000373530/> (2021 年 2 月 檢索) .

Verdon, Monsignor Timothy. 2020. “Art in Time of Corona Virus.” *Museum Management and Curatorship* 35 (3) : 215-16.

木村文. 2017. 「歴史的影響下におけるリトアニアの博物館政策の現状について」. *博物館学雑誌 = The journal of the Museological Society of Japan* 42 (2) : 69-98.

－. 2018. 「LIMIS : リトアニア博物館情報統合システム」. *博物館学雑誌 = The journal of the Museological Society of Japan* 44 (1) : 211-20.

－. 2020. 「非常事態における博物館の短期的な対応の事例について : リトアニア共和国における一斉長期休館時の ICT 活用」. *博物館学雑誌 = The journal of the Museological Society of Japan* 46 (1) : 71-90.

Facebook. 「Facebook ページを作成するにはどうすればよいですか。 | Facebook ヘルプセンター」.

https://www.facebook.com/help/104002523024878?helpref=about_content (2021 年 2 月検索) .

－. 「Facebook ヘルプセンター」.

https://www.facebook.com/help/?helpref=hc_global_nav (2021 年 2 月検索) .

FACEBOOK. 「会社情報」. Facebook について.

<https://about.fb.com/ja/company-info/> (2021 年 2 月検索) .

付録1 調査対象のリトアニアの国立博物館の名称・名称の日本語仮訳及びFACEBOOK ページ名称 (URL)

博物館の名称 (リトアニア語)	名称の日本語仮訳	Facebook ページ名称 (URL) *
Nacionalinis M.K. Čiurlionio dailės muziejus	M.K. チュルリョーニス国立美術館	Nacionalinis M. K. Čiurlionio dailės muziejus (https://www.facebook.com/CiurlionioDailesMuziejus/)
Lietuvos nacionalinis muziejus	リトアニア国立博物館	Lietuvos nacionalinis muziejus (National Museum of Lithuania) (https://www.facebook.com/lnmuziejus/)
Nacionalinis muziejus Lietuvos Didžiosios Kunigaikštystės valdovų rūmai	リトアニア大公宮殿博物館	Valdovų Rūmai (https://www.facebook.com/valdovurumai)
Lietuvos nacionalinis dailės muziejus	リトアニア国立美術館	Lietuvos nacionalinis dailės muziejus / Lithuanian National Museum (https://www.facebook.com/lietuvo_snacionalinisdailesmuziejus/)
Kauno Tado Ivanausko zoologijos muziejus	カウナス・タダス・イヴァナウスカス動物学博物館	Kauno Tado Ivanausko zoologijos muziejus (https://www.facebook.com/Kauno-Tado-Ivanausko-zoologijos-muziejus-253417041393611/)
Kauno IX forto muziejus	カウナス第九要塞博物館	Kauno IX forto muziejus (https://www.facebook.com/9fortomuziejus/)
Vytauto Didžiojo karo muziejus	ヴィタウタス大公戦争博物館	Vytauto Didžiojo karo muziejus (https://www.facebook.com/vytautodidziojo.karomuziejus/)
Lietuvos švietimo istorijos muziejus	リトアニア教育歴史博物館	Lietuvos švietimo istorijos muziejus (https://www.facebook.com/svietimomuziejus/)
Žemaičių muziejus “Alka”	「アルカ」ジェマイティア博物館	Žemaičių muziejus „Alka “ (https://www.facebook.com/muziejusalka.lt/)
Valstybinis Vilniaus Gaono žydų muziejus	ユダヤ博物館	Vilniaus Gaono žydų istorijos muziejus/Vilna Gaon Museum of Jewish History (https://www.facebook.com/tolerance.center.lt/)
Lietuvos aviacijos muziejus	リトアニア航空博物館	Lietuvos aviacijos muziejus (https://www.facebook.com/AviacijosMuziejus/)
Lietuvos etnokosmologijos muziejus	リトアニア民族・宇宙博物館	Lietuvos Etnokosmologijos Muziejus (https://www.facebook.com/Lietuvos-Etnokosmologijos-Muziejus-115789891805373/)
Lietuvos liaudies buities muziejus	リトアニア野外博物館	Lietuvos Liaudies Buities Muziejus (https://www.facebook.com/openairmuseumoflithuania/)
Šiaulių „Aušros “ muziejus	シャウレイ「アウシュロス」博物館	Šiaulių „Aušros “ muziejus (https://www.facebook.com/Ausrosmuziejus/)
Trakų istorijos muziejus	トラカイ歴史博物館	Trakų istorijos muziejus (Trakai history museum) (https://www.facebook.com/Trakuistorijosmuziejus/)
Maironio lietuvių literatūros muziejus	マイローニス・リトアニア文学博物館	Maironio lietuvių literatūros muziejus (https://www.facebook.com/maironio.lietuviu.literaturos.muziejus/)
Lietuvos jūrų muziejus	リトアニア海洋博物館	Lietuvos jūrų muziejus (https://www.facebook.com/muziejus.lt/)
Lietuvos teatro, muzikos ir kino muziejus	リトアニア演劇・音楽・映画博物館	Lietuvos teatro, muzikos ir kino muziejus (https://www.facebook.com/LTMKmuziejus/)
Respublikinis Vaełovo Into akmenų muziejus	ヴァクロヴァス・インタス国立岩石博物館	-

*Facebook ページの URL は全て 2021 年 2 月 27 日に閲覧したものである。

付録2 リトアニアの国立博物館 18 館各館の週ごとの投稿件数および投稿日数の推移のグラフ

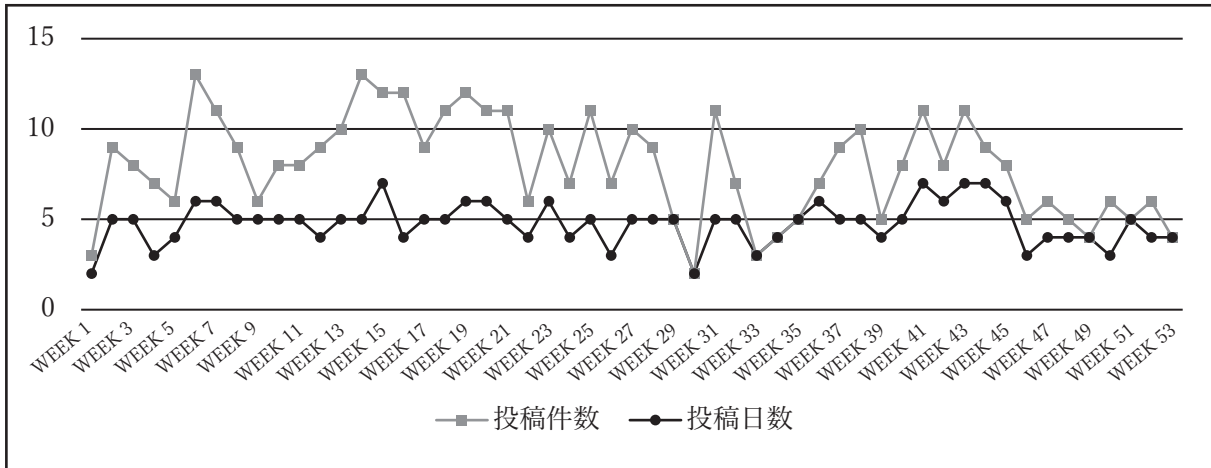


図 2-1 M.K. チュルリョーニス国立美術館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

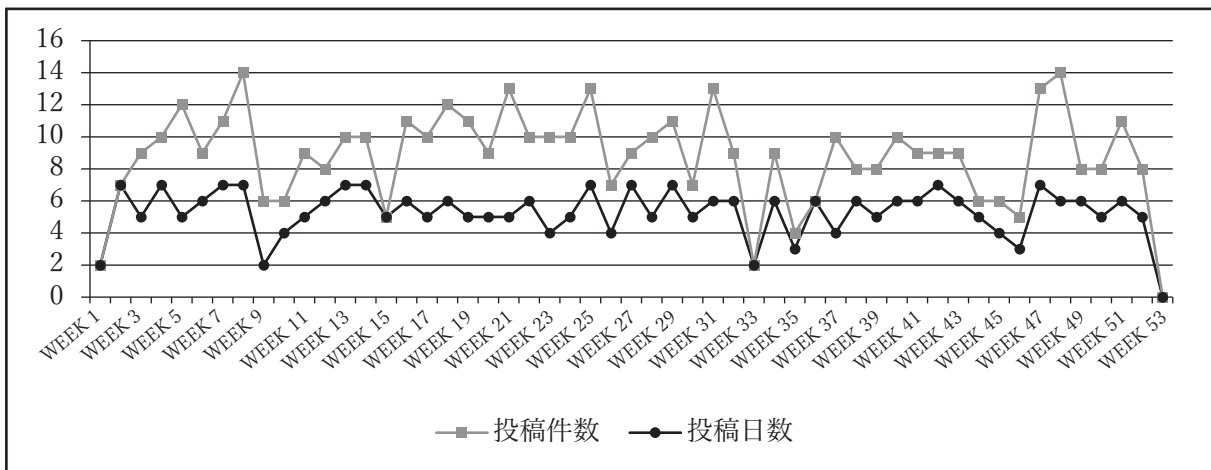


図 2-2 リトアニア国立博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

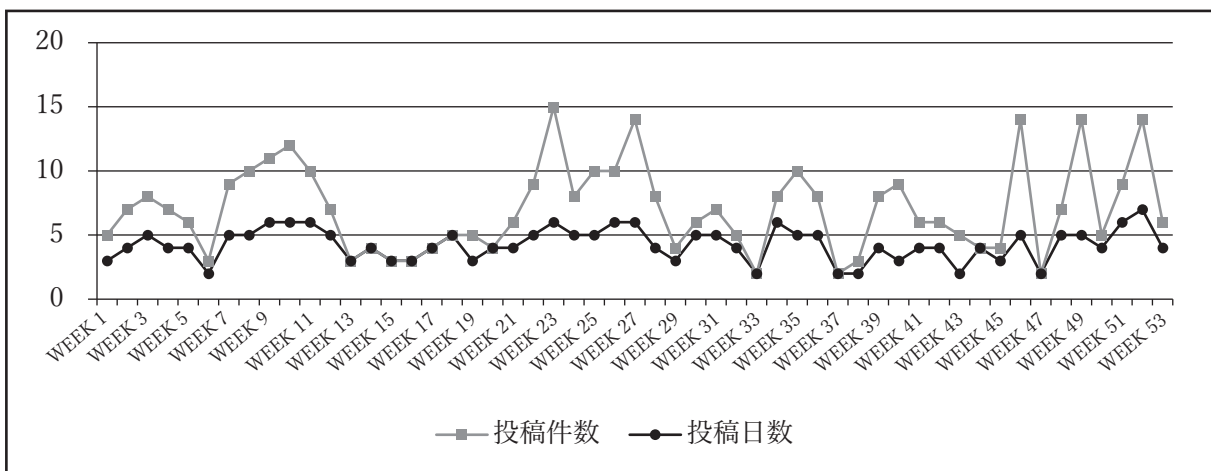


図 2-3 リトアニア大公宮殿博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

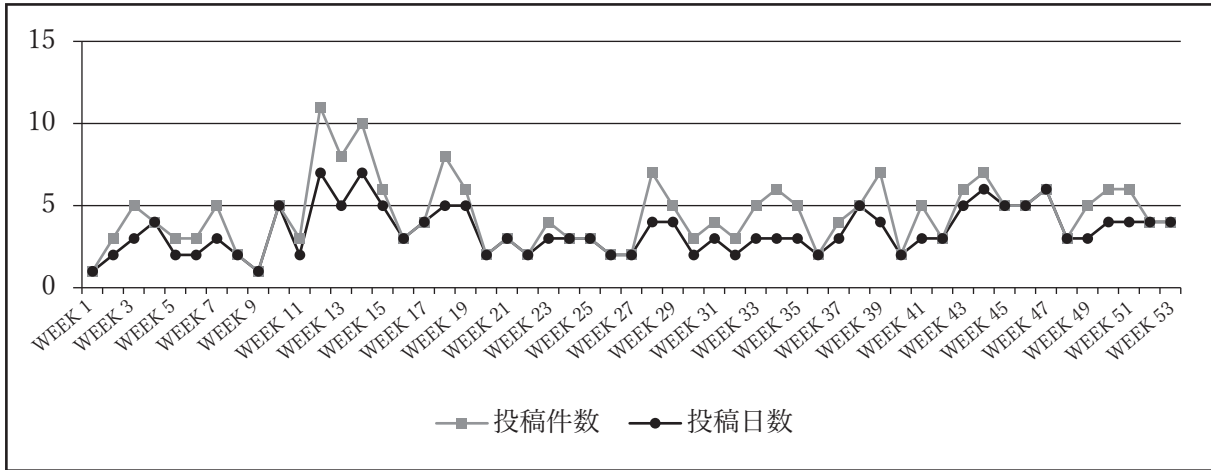


図 2-4 リトアニア国立美術館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

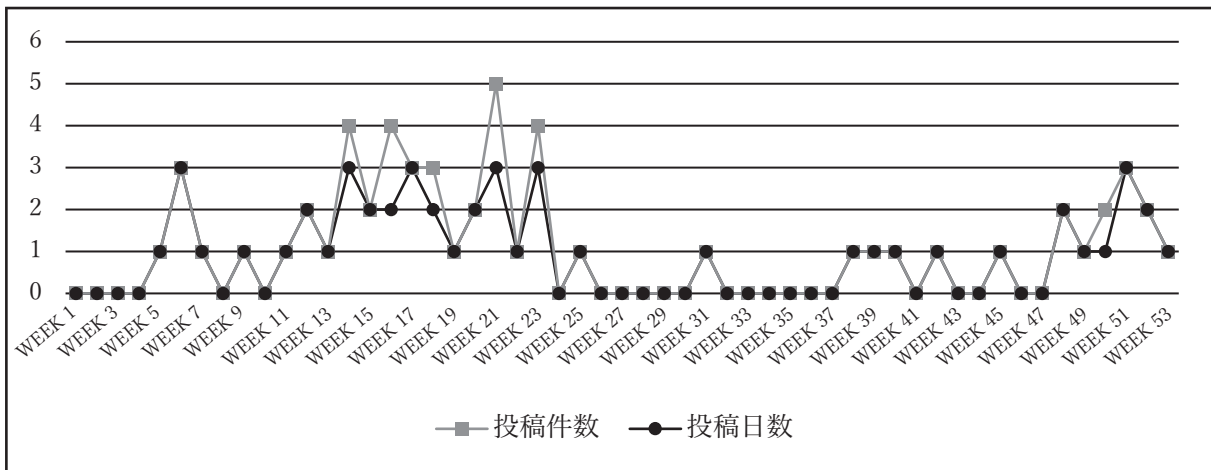


図 2-5 カウナス・タダス・イヴァナウスカス動物学博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

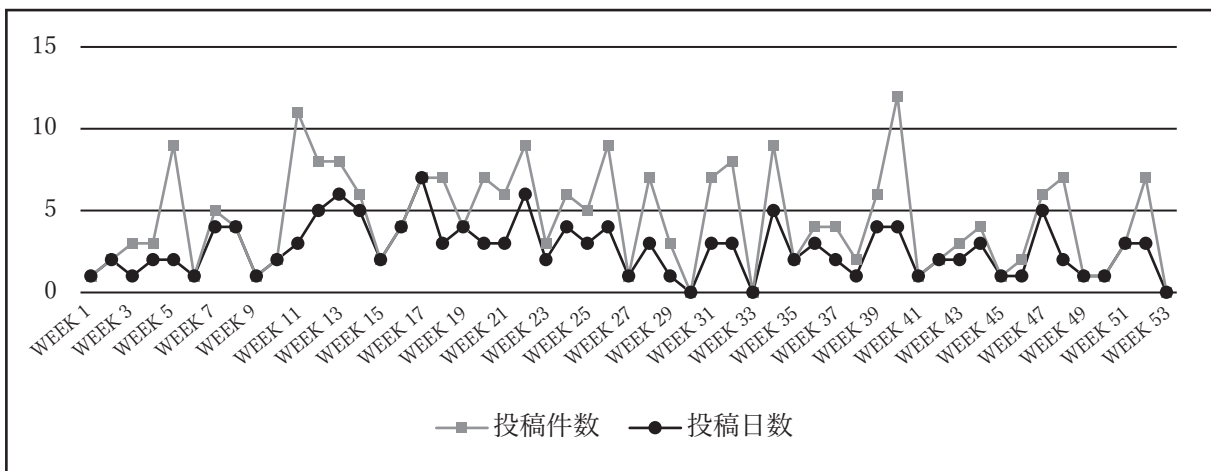


図 2-6 カウナス第九要塞博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

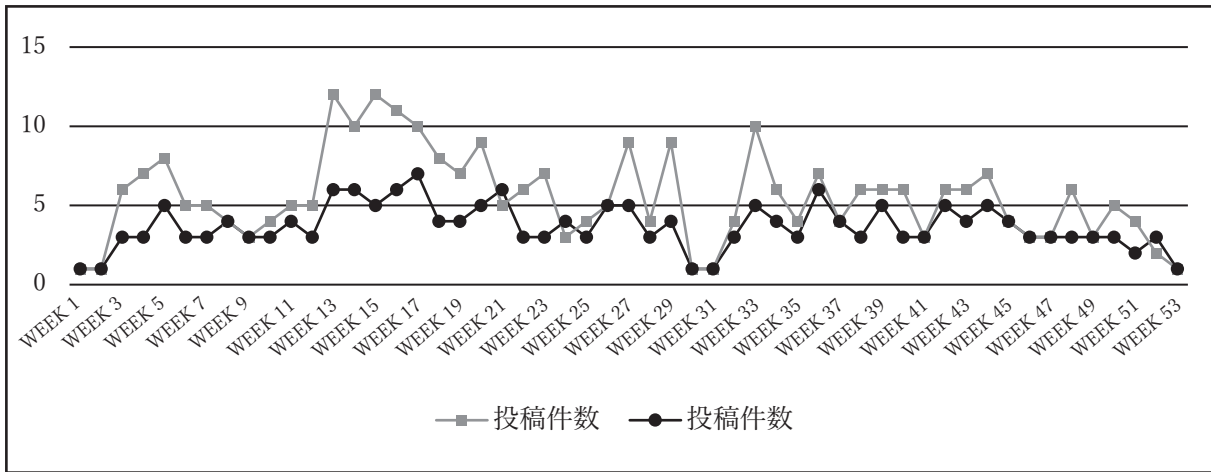


図 2-7 ヴィタウタス大公戦争博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

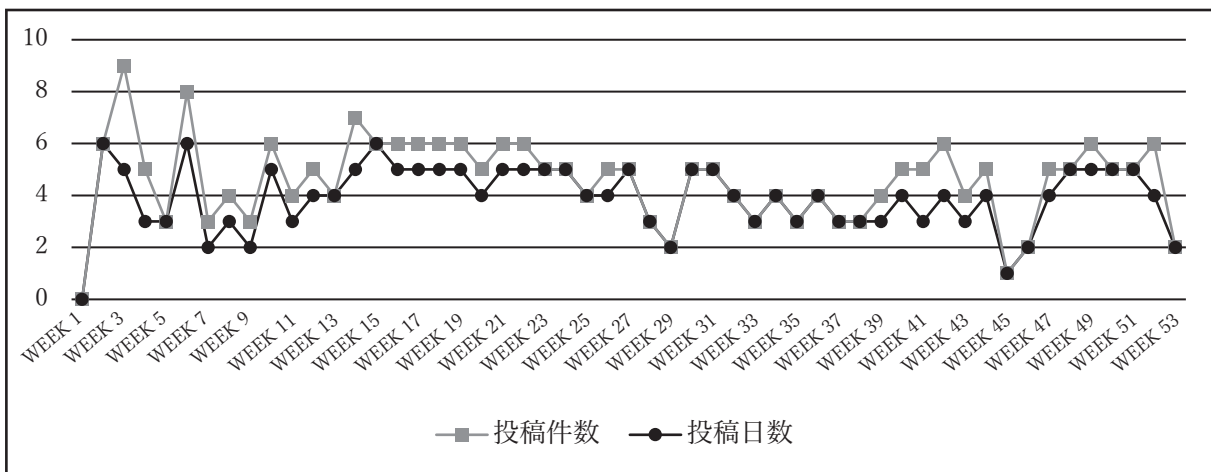


図 2-8 リトアニア教育歴史博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

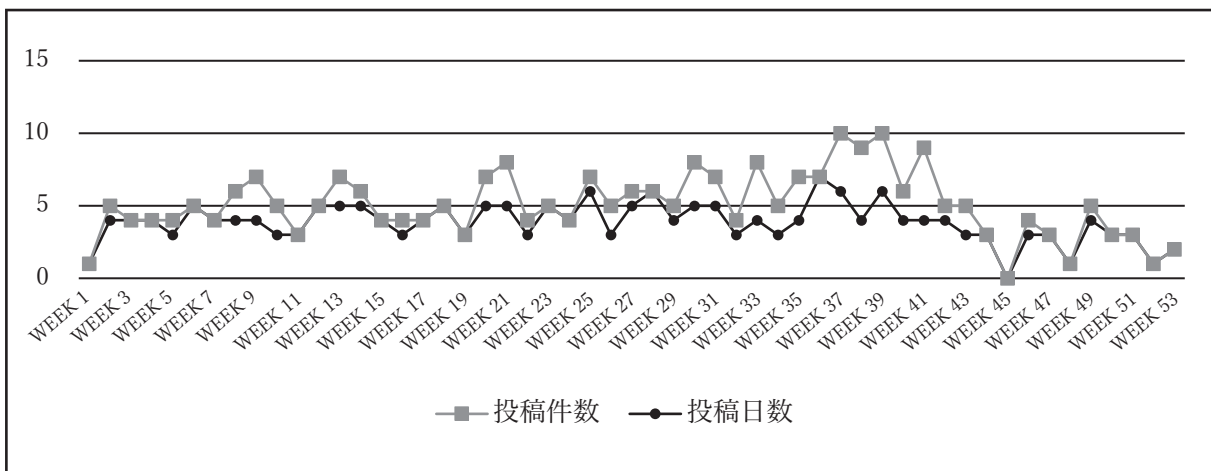


図 2-9 「アルカ」ジェマイティア博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

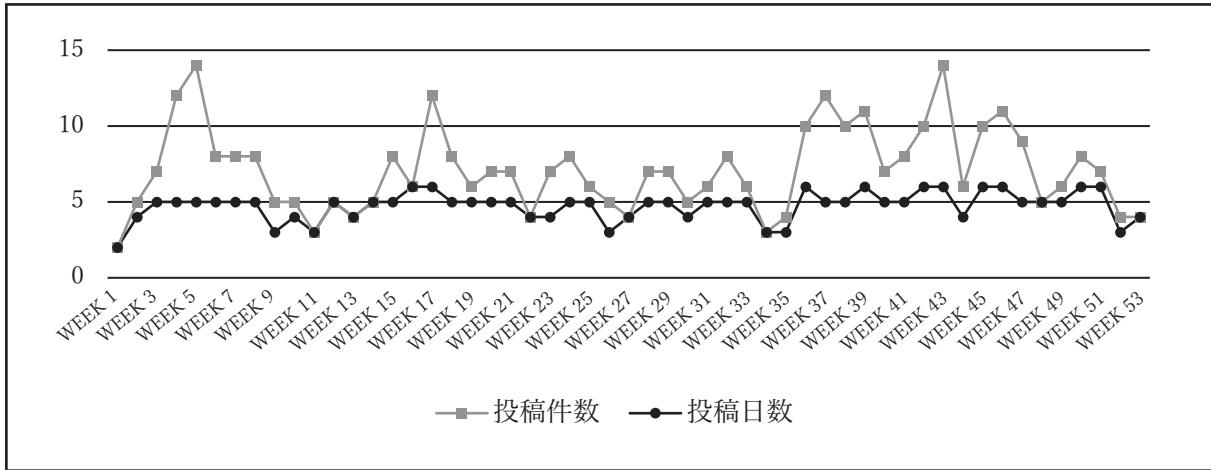


図 2-10 ユダヤ博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

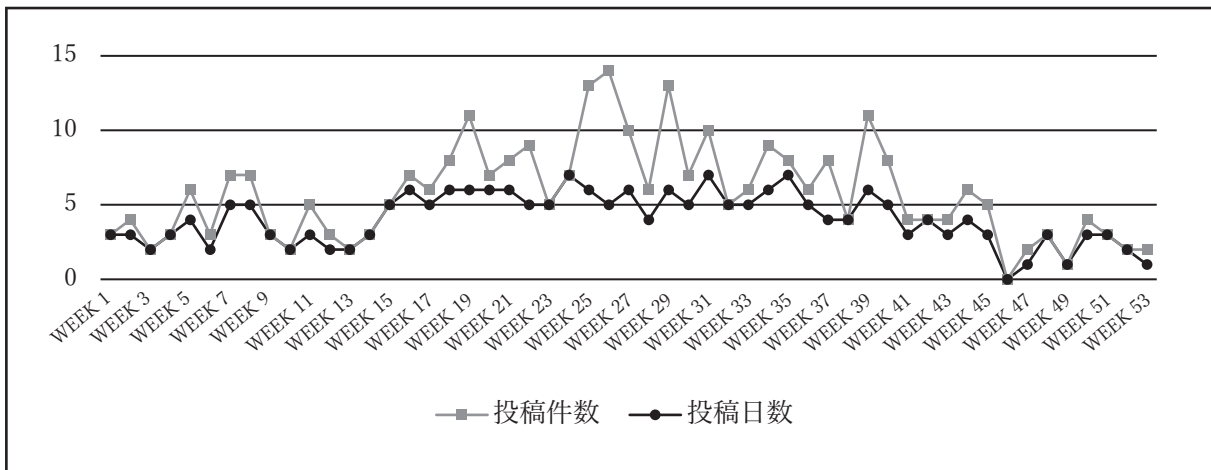


図 2-11 リトアニア航空博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

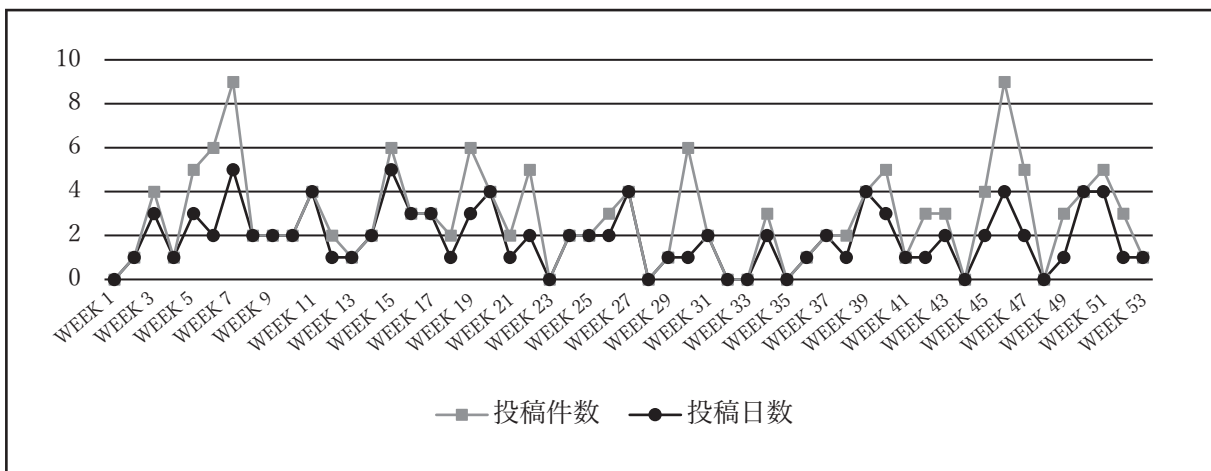


図 2-12 リトアニア民族・宇宙博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

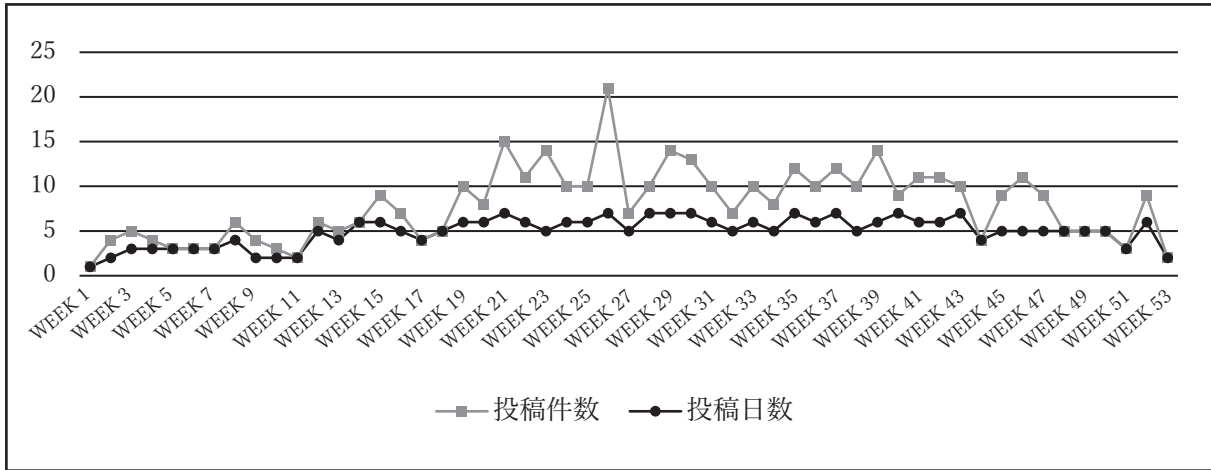


図 2-13 リトアニア野外博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

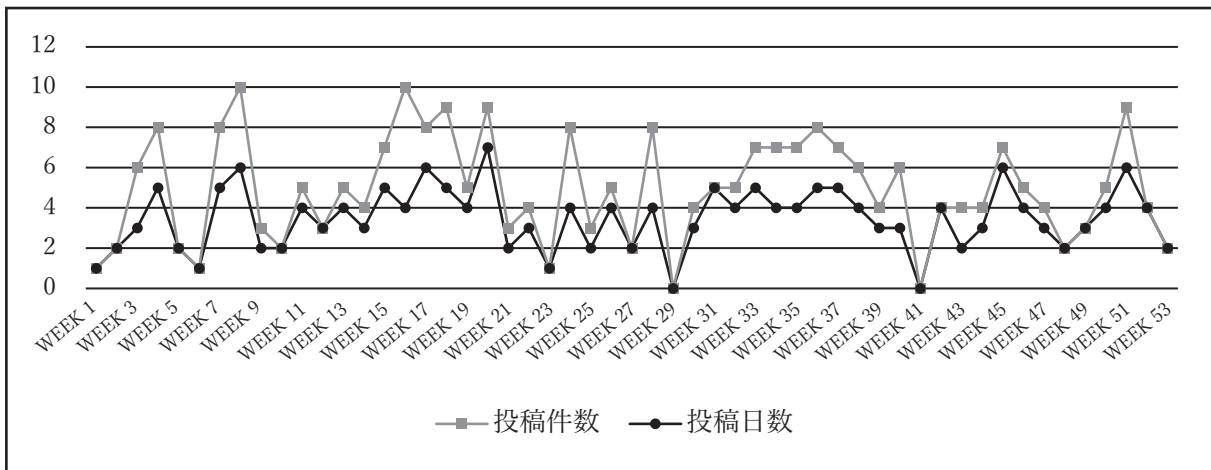


図 2-14 シャウレイ「アウシュロス」博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

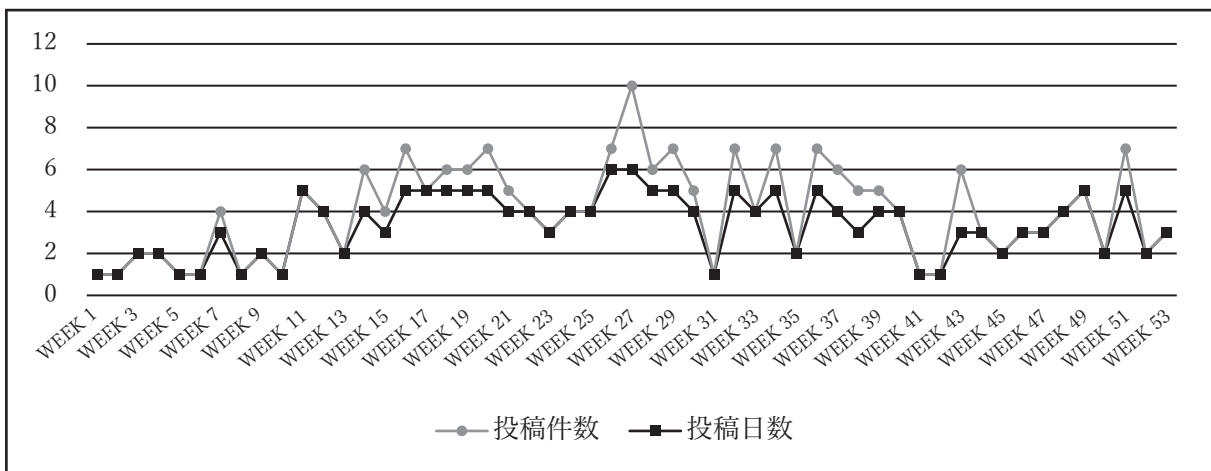


図 2-15 トライカイ歴史博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

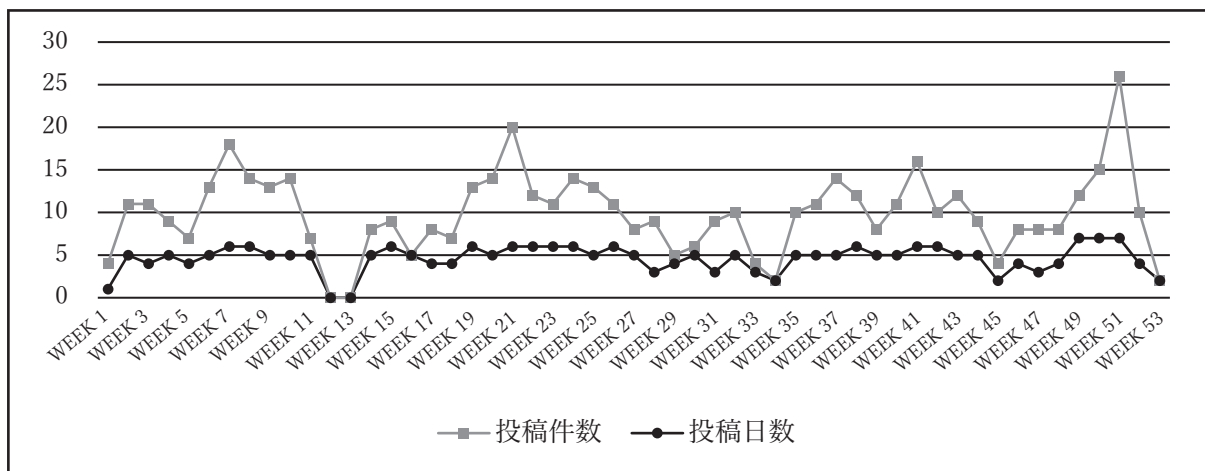


図 2-16 マイローニス・リトアニア文学博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

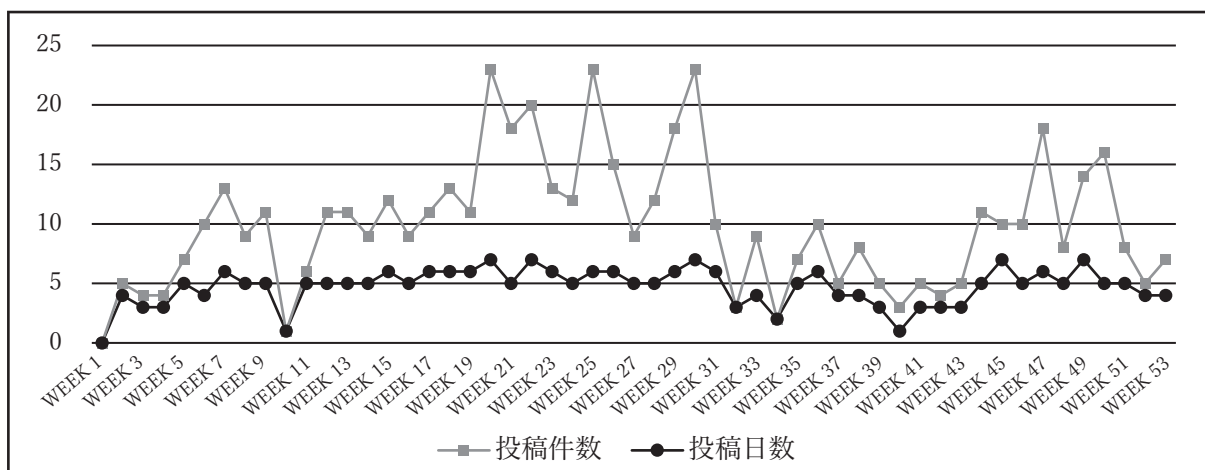


図 2-17 リトアニア海洋博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)

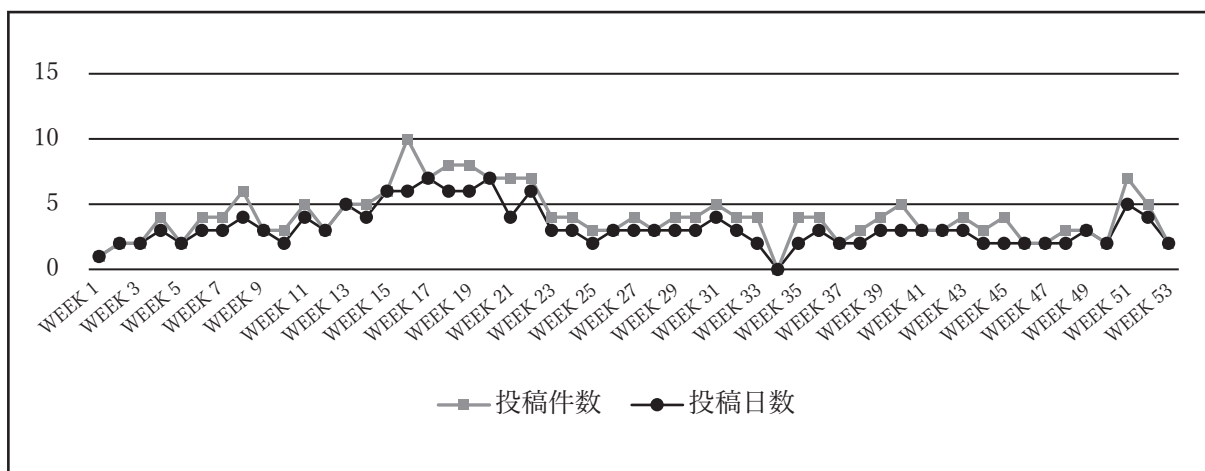


図 2-18 リトアニア演劇・音楽・映画博物館の週ごとの Facebook への平均投稿件数と平均投稿日数の推移(2020 年)